

女將軍 シーズン2 台本

● 第1章

雅「ああ、旦那様……っ♡

んんっ……んあ、あん、んっ、あ、ああ、ううっ♡

うん、あん、あんっ、あ、あっ、うん、んっ、んっく、んっふ……♡

あはあっ……ああんっ、あんっ、いや、やん♡

はっあああ……っ♡

旦那様っ、おチンポっ、気持ちいいです……っ♡

もっと、もっとたくさん……っ♡

私のおまんこに、お願いします……っ♡

んあう、あう、あん、あんっ、んあっ、んあうっ……♡

んあっ、あん、んくっ、んうっ……♡

はっああああん……っ♡

はっ、はっ、旦那様っ、んうん……っ♡

はっあ、はあ……っ。

旦那様は今日もっ、大変、元気でいらっしやいますね……っ♡

おチンポとってもガチガチで……っ♡

っううん……っ。妻として、たっぷりと……っ♡

愛してさしあげたくなっています……っ♡

っほお……っ♡

んあ、ああん、あっ、あんっ、んう、んあ、んあっ♡

ああ、旦那様と、濃厚接吻交尾……っ♡

舌と舌を絡め合うのが、とっても、心地よく……っ♡

あっ、あっ、あっ、あっ……っ♡

んっ、あん、んあ、あっく、んっく、いや♡

はあああ……っ♡

旦那様、お口を……っ、舌を、こちらに……っ♡

私の涎、飲んでください……っ。

私も旦那様の涎、たっぷりとお飲みいたします……っ♡

唾液交換しながらの、熱い口づけを……っ♡

へえあ……っ♡

ああっ、おまんこ、熱く……っ♡

旦那様の熱い唾液を飲んで……っ、

おまんこがいっぱい、感じてしまってえ……っ♡

んっうん……っ、はっ、ふうっ、はああ……っ♡

はい、はい……っ。出てしまいそうなのですね……っ♡

いいですよ……っ。今日もたくさん、私の中に……っ♡

あなたの赤子を産み……っ、

すっかりさみしくなってしまった子宮に……っ♡

またいっぱい精液を、お注ぎください……っ♡

この国で一番強い女將軍……っ、

この雅を孕ませることの出来る、唯一の男……っ♡

私の愛する夫であるあなたの子種汁を、たっぷり注いでえ……っ♡

すぐにでも第二子、孕ませてくださいませえ……っ♡

いあ、ん、んうっ、んあ、んあう……♡

んっ、ああ、ああんっ、あんっ、いや、やん♡

んあう、あう、あん、あんっ、んあっ、んあうっ……♡

あっ、あっ、イックっ、イックっ♡

イキますっ、私もっ、おまんこっ、イキます……っ♡

あっ、うつ、あっ、あっあああ……っ♡

イック、イック、んっうんっ、はああああ……っ♡

イクイクイクイクっ、んいっくっ、んうんうあああ……っ♡

んっ、おっ、はっ、はっああ……っ♡

熱い精液……っ、とろっとろの濃厚子種汁……っ♡

あなたの孕ませチンポ汁……っ♡

いっぱい、出ております……っ♡

私の子宮、大変喜んで……っ♡

精液、ごくごく、いっぱい飲み干しておりますよ……っ♡

ああ、旦那様……。愛しております……っ♡

私の旦那様あ……っ♡

紅「雅よ、おるか？　ここにおると聞いたのだが――ぬうつ！？」

お、お主ら、何を……っ！？」

雅「んう……？」

ああ、姉上。そうか、今日だったか。

帰ってくる日というのは……。

お久しぶりです。

ですが、見ての通り……私は今、

愛する夫との子作りに忙しく……。

少々お待ちしていただきたくーんあっ♡

旦那様……っ♡

姉上の前で、そんな……っ♡

この雅を押し倒すなど……っ♡

っああああ……っ♡

旦那様あ……っ♡

はっああああ……っ♡

力強いおチンポ抽挿……っ♡

かっこいいです……っ♡ さすが私の、旦那様……っ♡

うっく、うぐ、うあ、うあん、あん、はあっ、あはっ、あはあっ……♡

あっ、ああっ、あっ、はあっ、あんっ、あん、あんっ、やんっ、ふあっ

♡

はっああ……♡」

雅「あっ、あつい、んあ、ああん、あっ、あんっ♡

んう、んあ、んあっ、あっ、あっ、あっ、あっ……♡

はああああ……♡」

紅「我が妹は下々の民と婚姻し、大變仲睦まじいとは、
聞き及んでいたが……。

まさか、これほどとは……。

やれやれ、終わるまで待つしかなさそうじゃの……。」

雅「っあああ……っ。旦那様……っ♡

ええっ、もちろん、よろしいですよ……っ♡

私のおっぱい……っ、我が子にすべて飲み干され、
母乳は出なくなっていました……っ♡

どうぞ、たっぷり……っ♡

お吸いください……っ♡

我がおっぱいは、子供を除けば、依然……っ♡
あなただけのものですからね……っ♡

んううあ……っ♡

おっぱい、ちゅうちゅう……っ♡

とってもお上手で……っ♡ んっうん……っ♡

はっあああ……っ♡

ああ、旦那様、旦那様……っ♡

愛しております……っ♡

この想い、全身で、どうか……っ♡

受け止めてください……っ♡

我が渾身の抱擁でえ……っ♡

私の愛をお……っ♡

っあっあああ……っ♡

旦那様っ♡ 旦那様あ……っ♡

ん、っく、ん、んふう、んあ、あう……♡

ひあ、あ、んあっ、ああっ、ううあっ……♡

んあ、んう、あん、うん、あん、あんっ♡

ふうううう……っ♡

あっ、あっ、おまんこっ、熱く……っ♡

旦那様の大きいおチンポっ♡

またいっばいっ♡ おまんこの奥う……っ♡

あっ、あっ、またっ、次の子を孕ませようとっ、

奥にっ、ぎゅうぎゅう……っ♡

っあああ……っ♡

はいっ、はいっ♡ 旦那様……っ♡

どうぞ、お注ぎください……っ♡

またいっぱいの精液を……っ♡

私の子宮はっ、旦那様の子種汁っ♡

いくらでも、受け止めます……っ♡

溢れるまでっ、零れるまで……っ♡

私の赤ちゃんのお部屋をっ♡ たっぷりとっ♡

旦那様の色で染め上げてください……っ♡

あああ……っ♡ 私もまたっ♡

絶頂……っ♡ おまんこイッて、しまいます、のでえ……っ♡

んううん……っ♡

ん、んあ、はあ、あふ、ふあっ……っ♡

お乳たっぷり吸いながらあ……っ♡

びゅーびゅーお射精、たくさん、どうぞお……っ♡

んっ、あっ、あう、んっ、んうっ、ひあ♡

はっああああ……っ♡

あっ、んっ、イック♡ イックっ♡

おまんこっ、イキますっ、うああああ……っ♡

んうあっ、ああああっ♡ イクイクっ♡

イックっ♡ 旦那様っ、っううああ……っ♡

あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あああああ……っ♡

んううああああ……っ♡

はっああっ、ふうううっ、んうあああ……っ♡

ああ、旦那様……っ♡ 熱いお射精……っ♡

たっぷりと、子宮に……っ♡

ふっう、ふっう、ふっううう、はああ……っ♡

ああ、旦那様♡

幸せです♡ 雅は、あなたの妻となれて♡

今、とってもお♡

ふふ……♡ ふふふふふ……♡「♡」

● 第2章

雅「ええと……。

お、お久しぶりですね、姉上。

「ご無事にお帰りになられたようで、なによりです。」

紅「う、うむ。久しぶりじゃのう、雅。

しかしまあ、この数年、

諸外国を方々歩き回ったが……。

今日が一番びっくりしたわ……。

仲睦まじいとは聞いてはおったがのう……。

して……そちが我が妹、雅の種馬……」

雅「んん……っ。」

紅「……もとい、伴侶となった者か。」

ふむ……。雅に見初められたと聞いて、

どれだけ屈強な男と思っておったが……。

意外というか、なんというか……。」

雅「いえいえ、我が旦那様はこれでも、

とてもお強い方なのです。

この私でも勝てないほどに♡

私もその強さに惚れ込んだために、

この方に夫となっていただき♡

そして、第一子も産まれたばかりでありまして♡」

紅「うむ、聞き及んでおる。

妾が帰ってきた理由はそれじゃ。

妹がめでたく跡継ぎを産んだと聞いては、

顔を見せんわけにはいかぬじやろう？

しかし……跡継ぎやその候補となるものは、

確かに何人産んでもよいものではあるが……。

ちと、盛んが過ぎるのではないか？

子作りに励みすぎて、妾まで無碍に扱っておって……。」

雅「それはまことに申し訳ありません…

少々、愛が溢れすぎてしまっていたようで♡

ねえ、あなた♡

ふふふ……♡」

紅「おいおい……」。

そういうのはほどほどにせえ。ほどほどに……。

まったく、見ちゃおれんの。

諸々聞いていたことが事実だと言うこともわかったことだし、

妾は城内の様子でも見てくるかのう。

臣下の者にも挨拶をせねばなるまいしな。」

雅「ええ。みな、喜ぶと思います。」

紅「では、雅。そして、嬪殿。

また後で、ゆっくり話そう。」

雅「……いかがでしたか？

あれが我が姉上の、紅桜です。

少々気まずい出会いとなりましたが……。

いずれは仲良くなってくれと幸いです。

……旦那様？ どういたしました？

……まさか……。

旦那様♡

まさかとは思いますが……♡

姉上にも劣情を抱いたというのではないですよね……？

確かに姉上は、私に似て美人……♡

胸もお尻も旦那様好みの、

存在そのものが男を誘惑する形をしている女性ですが……♡

かと言って、自身の伴侶の姉に対して欲情するとは♡

いけないお人です♡

このままでは浮気……いえ、

姉上へと不意に襲いかかり、

孕むまで犯してしまうかもしれませんね……♡

そうならないよう、今のうちにしっかりと♡

キンタマ汁、搾っておかないといけません♡

さあ、旦那様♡ おチンポをこちらに♡

私がしこしこ、発情おチンポをしごいて、

種汁を搾り出してさしあげます♡

しこしこ、しこしこ、おチンポ、しゅっしゅっ♡

ほうら、旦那様♡ いけませんよ♡

あなたの妻は私です♡ 私だけなのです♡

いくらあなたの大好きな、爆乳デカ乳むっちりおっぱいを、

姉上も持っていたとしても♡

その手でもみしただけ、手のひらから快感が走り、

その感触だけでもお漏らししてしまいそうな、

スケベなおっぱいを持っていたのだとしても♡

種付け欲求を持つことは、許されません♡

どうしてもあのおっぱいを堪能したいというのであれば♡

ほうら♡

ここに同じものがありますから♡

どうぞ、おっぱいちゅうちゅう♡

愛する妻の爆乳おっぱいに吸い付いて♡

おチンポ興奮なさってください……っ♡

っあん♡

はい、そうですよ、旦那様♡

姉上などいなくても、いつものように♡

あなたのおチンポたっぷり、心地よくしてさしあげますから♡

しこしこ、しこしこ、おチンポこすこす♡

お嫁さんおっぱい、おいしいですね……♡

あなたの子を孕み、産み落とし、

そして第二子をまたも孕みたがっている、

あなたの妻の、あなたと赤ちゃん専用のデカ乳ですよ♡

ちゅっちゅ、ちゅっちゅ♡

ちゅぱちゅぱ舐め舐め、たんまりどうぞお♡

はあい、はあい♡ おっぱいおいしいですねえ♡

ふふふ……♡

さあ、お尻もどうぞ♡

おっぱい吸いながら、その手で私のムチムチのお尻を、

揉み揉みと♡

おチンポとキンタマを興奮させるために、

ご堪能ください♡

姉上にも、同じようなデカ尻桃尻がついております♡

触るだけでも極上で♡ 尻肉を持ち上げれば、天に昇る柔らかさ♡

おチンポを挟んだり、お顔を突っ込み、尻肉ばふばふをしたり♡

お尻遊びをすれば二度と忘れることのできない快樂を楽しめる、

スケベなデカケツを持っておりますが……♡

それは私も同じこと♡

どうぞ、姉上ではなく、あなたの妻の♡

この雅の身体でおチンポ、楽しんでください♡

そのためなら、私も♡

身体中をあなたのおチンポのために捧げさせてもらいますからね……♡

おっぱいちゅうちゅう、お尻を揉み揉み♡

あなたが濃厚精液を出してもらうために♡

我がすべてを♡

っぁあん……っ♡

ええ、ええ♡ どうぞ、旦那様♡

ぁあん♡

んっ、あっ、やっぁんっ、はぁ♡

おチンポ熱くなってまいりましたよ♡

お漏らししてしまいそうなのですね……♡

ええ、いいですよ♡

姉上のことを考えて、よこしまなことを考える、悪いおチンポ♡

大事な妻のおっぱいとお尻で思考を上書きして♡

愛情たっぷり幸せお射精で、二度と♡

変なことなど考えないようにしましょうね……。♡

さあ、さあ♡ どうぞ、どうぞ♡

おチンポどうぞ、お射精どうぞ♡

おチンポびゅー♡ おチンポびゅーびゅー♡

おチンポどっぴゅう♡

びゅー、びゅー、びゅー、びゅー♡

びゅるるう♡ びゅるるるう♡

どぴゅどぴゅ、どっぴゅう♡

ふふふふふ……。♡

おチンポ、すっきりいたしましたか？

ええ、それならばよかったです♡

では、旦那様。

我らも城内を見て回しましょうか。

姉上の様子も気になるところですし……。

では、参りましょう。

ふふふふふ……。」

● 第3章

紅「媚殿……。媚殿よ。

こっちじゃ、こっち。

こっちへ来い。

そうそう、いい子じゃのう。ふふふ……。♡

よく来たのう、媚殿よ。

改めて自己紹介をしよう。

妾が紅桜じゃ。そちの妻である雅の、実の姉じゃ。

さて……。妾がそちを我が部屋に案内したのは、他でもない。

そちに妾の命令を聞いてもらうためじゃ。

何せ妾はこの国の長の姉……。

すなわち、この国で一番えらい人物ということじゃ。

たとえ將軍の婿であっても、断ることは許されぬ。

わかっておろう？

……ふふ、納得してないような顔をしとるが、関係ない。

さあ、近うよれ。

なあに、安心せい。

ちよいと楽しませてもらうだけじゃからな♡

はっあゝ……っ♡

っふう♡

ふふ、なるほど♡

これがそちのおチンポの味♡

っふう♡

これはなかなか、美味いではないか♡

褒めてつかわずぞ♡ んっうっはあ……っ♡

っはあ♡

おチンポの先端……っ♡ 精液が出てくるおチンポ穴……っ♡

舌先でぐりぐり♡

こうして責められると、男は容易に屈服するのであろう？

たっぷり舐めてやるぞ♡

ふふ、我慢汁がまたたんまりと溢れて♡

いい出汁が出てきおる♡

っふう、っはぁ……っ♡

そろそろ強烈なの♡ してやろうか……っ♡

おチンポじゅるじゅる♡

ぐっぽりと吸引、してやろう♡

妾の喉の奥まで、おチンポ、飲み込んで♡

はゝぁ……っ♡

っはぁ♡

どうじゃ♡ おチンポを喉で締め付けられるのは♡

これは他ではなかなか味わえないじゃろう♡

それ、もっとしてやる♡

遠慮せず、たっぷり感じるのじゃぞ♡

いいのじゃぞ、いつ出しても♡

妾の口の中に、浮気射精、びゅるびゅるびゅっふう♡

乳首をぐりぐり、ぎゅうぎゅうつねられ、ねじられて♡

オスの尊厳を破壊されながら、チンポを吸われ……っ♡

っはぁ♡

キンタマから濃厚精液♡

どびゅどびゅ漏らせ……っ♡

んうおっ♡ おお……っ♡

んっ、ふっ、んっうんっ、くっふうう……っ♡

ふっう、ふっう、んっうん、ふうう……っ♡

はっ、ふっ、ふっ、ふううう……っ♡

んぎゅ♡ んぎゅ♡

んうん、んぎゅ♡ んぎゅ♡ んぎゅ♡

んへあ♡ はあ、ふう、はあ、はあ♡

ふううう♡

ふふふ……♡ 精液ごっくん♡

熱い塊が喉奥を滑り落ちていく感触♡

芳醇なオスの香り♡ たまらんなあ♡

ふー♡ ふー♡ はー♡

ああ、熱い熱い♡ 服など着てられんわ♡

っふう♡ これでよし♡

そちのだあい好きなデカ乳も、思う存分ーん？

どうしたのじゃ？

傷?.....ああ、妾のこの腹の傷か?

なあに、気にするな。

そちは知らずともよいことじゃからの。

そちが気にするべきは、やはり、こっち♡

この両手でも余る程のおっぱいじゃろう♡

今度はこいつで、そちのおチンポ……っ♡

ほうれ♡ ぱっふんと♡

乳肉でみっちり挟み込んで♡

擦りあげてやろう……っ♡

それ♡ それ♡ そうれ♡

ずっしり重たいデカ乳を、むぎゅうとおチンポ、

押し付けてえ♡

おチンポぎゅっぎゅと♡ おチンポ搾り……っ♡

どうじゃ♡ 雅にも負けない妾のデカ乳は♡

そちのおチンポすべてを飲み込んで、乳圧むっちり♡

こうして谷間に妾の涎を流し込んで♡

ほうれ♡ おチンポぬるぐちょ♡

乳ずりがもっと気持ちよくなるのう♡

ぬっちゅ♡ ぬっちゅ♡ ずっちゅ♡

ふふ……♡ 腰がかくかく震えておるわ♡

我慢汁もたんまり溢れさせて♡

妾のおっぱい、こんなに汚しておって♡

妻でもない女のおっぱいに、

おチンポの匂い、染みつかせるつもりか？

ひどい男じゃのう♡

そんなひどいオスのおチンポは♡

妾が責任を持って、お仕置きしてやろう♡

生意気にも、妾のおっぱいから飛び出ようとしている、

この亀頭♡

また、妾の口で♡

っはぁ♡

じゅるじゅる啜り取るぞ♡

っはぁ♡

ふふ、どうした、媚殿♡

もうイッてしまいそうか？

おチンポ汁、妾のおっぱいにぶちまけてしまいそうか？

ああ、よいぞ♡

出してしまえ♡ いっぱい漏らせ♡

敗北浮気射精、もう一度♡

妾の口の中に、熱くて臭い種汁どびゅどびゅ♡

お漏らししてしまえ♡

それ♡ 乳圧強く……っ♡

おチンポ押し潰してえ♡

出せ出せ、出せ出せ♡

んうんっ、んっふっ、ふうううん……っ♡

んっ、っうんっ、んうんうあっ、んっうん♡

んっ、うんっ、んぐん、ごっきゅん♡

ぷへあ♡ ふう、ふう、ふう♡

ふふ……♡ 精液、いい味じゃ♡

新鮮な精子が舌の上で踊っておるようじゃぞ♡

ふふふ……♡

っはあ♡ こっちの方も、ひどいものじゃ♡

溢れた我慢汁、こぼれた精液♡

汚れたおっぱいでこすりつけられて、

おチンポがテカテカに光っておる♡

これを放置するのは♡ いかんじゃろう♡

しっかりお掃除してやるわ♡

大人しくしておれよ♡

んうぁ♡

っはぁ♡

べとべとに汚れたおチンポ、ねっとり舐めあげて♡

っはぁ♡

おっと♡ こっちの方にまで垂れておったか♡

濡れたキンタマも、しっかりお掃除♡

っと♡

おいおい、キンタマをしゃぶられたぐらいで、

おチンポびくつかせるのではないわ♡

これはただのお掃除なのじゃからな♡

この程度でおチンポびくつかせていては♡

っはぁ♡ ふふふふふ……♡

ほうれ♡

せっかくきれいにしてやったというのに♡

またおチンポ、大きくなってしまったではないか♡

まったく♡

わがままなおチンポじゃのう♡ 媚殿よ♡

さあ♡ お楽しみ時間はこれからじゃ♡

妾との楽しい浮気♡

ここからが本番じゃぞ♡

なあ、媚殿♡

そこで大人しくしておれよ♡

じっとしているだけで、そちも気持ちよくなれるからの♡

勃起おチンポ♡ 妾の中で♡

妾の処女まんこで、たっぷりと♡

心地よくしてやるからのお♡

んっ♡ はっ♡ んっ♡

ああ……っ♡ 入る、入って♡

っああ……っ♡

初めてのおチンポ、妾の中に……っ♡

うっ、くっ、はっ、はっああ♡

くっふう♡

ふっ♡ はっ♡ ふっうう♡

なる、ほど、のお♡

これが、交尾♡ おまんこ挿入、か♡

この快感の波♡ これならば確かに、あの雅であっても♡

そちとの交尾にハマっても、おかしくはないの♡

ぬう？ ふふ……♡

ああ、しっかりと気持ちいいぞ♡

妾も少々、驚いておるよ♡

初めてというのはもっと痛いものと思っていたからの♡

じゃが、痛みなどよりも、んっ♡

おチンポによる快感の方が、よっぽど強く♡

ふっ♡、ふっ♡、はああ♡

ああ、おまんこうずうず、止まらなくなってきたわ♡

ゆくぞ、媚殿……っ♡

おチンポずぼずぼ、おまんこハメハメ……っ♡

浮気交尾、たっぷり楽しませてやるわ……っ♡

んっ、あっ、はっあっ、くううん……っ♡

っああ、んあう、んっく、くあ……っ♡

はぁぁぁぁぁ……っ♡

あぁっ、これが……っ♡ そちのおチンポ……っ♡

おまんこっ、ぐいぐいっ♡ 押し広げてきよるわ……っ♡

この感覚……っ♡ 初めてじゃがっ、確かに……っ♡

脳髓に突き刺さるようなっ♡ 強い、快感……っ♡

はぁっ、んんあ、つくぁ……っ♡

ふふふ……っ♡

そちもなかなか、楽しそうじゃのう♡

妻がおまんこ、上下させるたびに……っ♡

いい表情で感じておるじゃあないか♡

かわいいのう……っ♡ 愛いやっ愛いやっ♡

ほうれ、よしよししてやろう♡

我が妹の媚殿となれば、我が弟と同じ♡

同じきようだいであるならば、たっぷり甘やかしてやらんなぁ♡

よしよし、よしよし♡

いい子、いい子じゃぞお♡

そちの姉として、いっぱいおチンポ、甘やかしてやるぞお♡

ほうれ♡ おまんこぎゅっぎゅう、肉ひだ、締め付けてえ♡

っくううう……っ♡ この硬さ……っ♡

たまらんのう♡

んうっああん、うん、あんっ、あっ、んあ、ああ……っ♡

はあ、はあ、はっあああ……っ♡

そら、そちももっと強く、甘えてよいぞ♡

姉上、姉上え、と♡

たんまり甘えながら、妾のおまんこ、楽しむがいい♡

っはあ♡

ほれ、接吻じゃ♡

舌を絡めて、唾液を交え♡

さらにおチンポ、熱くするのじゃ♡

へっ、はっ、ふっ、ふううう……っ♡

んう……？ どうした、媚殿♡

ふふ……♡ もう出るじゃと？

はは♡ 背徳浮気交尾に興奮しすぎたか？

さすがに早いのう♡

じゃが、うっああ♡

やはりそちと妾は、相性がよさそうじゃ♡

妾もっ、んうん♡ おまんこ、もう……っ♡

絶頂、近付いてきておるからの……っ♡

ともに、参ろうか……っ♡

快感の高みへ♡ きょうだい仲良く……っ♡

ほれ、よいぞ、出せ♡ 妾の中に♡

出したいのじゃろう♡ 浮気中出し孕ませ射精♡

雅と子作りできて、妾とできない道理はなからう♡

さあ、出せ、出すのじゃ♡

妻の姉の子宮に、熱い精液、びゆるびゆると♡

濃厚種付けキンタマ汁を……っ♡

ぶちまけて、みい……っ♡

ひい、あはあ、ううあっ……♡

うっあっ、あっああっ、イクっ♡ イクっ、ぞ……っ♡

あっ、あっ、おまんこイクっ♡ おまんこっ、イキよるっ♡

あっ、あっ、おっ、おっ、あっ、あっあああ……っ♡

はっああっ、んっうんっ、んっあっ、ふっううう……っ♡

ああ、中にたっぷり、注がれて♡

弟精子♡ 子宮にたんまり♡

ふふふ……♡

よしよし、よしよし♡ いい子じゃの♡

姉のおまんこに、こんなに熱いのを送ってくれるとは♡

ふふふ……♡ よおしよおし♡

んっはぁ♡ はぁ、ふう♡

ふふ……♡ やはりのう♡

そちのおチンポは、まだまだこんなものでは満足せんようじゃ♡

よいぞ♡ 姉として、

弟の世話はしっかりせんといかんからな♡

次はこちらで♡

ほっ♡

妾の尻の穴で♡ おチンポ、鎮めてやろう♡

ケツ穴処女も♡ そちにくれてやるからの♡

んっくううん♡

ふっ、はっ、はっぁぁ♡

ぁぁ♡ 尻に、おチンポ♡ んっ♡

おまんこもまた違う感触♡

腹の奥に直に……っ♡ 熱が、迫ってくるようじゃ♡

ふっ、ふっ、ふっ、はっああ♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ……♡

はっあああ……っ♡

どうじゃ、媚殿♡

妾の尻穴は……っ♡ おチンポ、心地よいか……？

おお、そうか、そうか……っ♡ んっうん……っ♡

そう言うてくれるのであれば……っ♡

尻穴処女を捧げた甲斐も、あったものじゃなあ……っ♡

っううああ……っ♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう……っ♡

ふっ、はっ、はっあああ……っ♡

ほうれ♡

ならば、手を貸してもらおうぞ♡

こうして、互いの手を握り合い……っ♡

熱く繋がり合いながら……っ♡

尻穴交尾、するでしょう……っ♡

んあ、うっふ、うん、あは、あんっ、あんっ、あんっ♡

はっあああ♡

ああ、媚殿♡ いい顔じゃのう♡

姉の尻穴にたんまりおチンポ甘えさせてもらって♡

幸せそうじゃなあ♡

んうあゝ♡

ふふふ……♡

そんなにいい顔をしていると♡

もっと甘やかしてやりたくなるわ♡

犬のように、顔をたっぷりべろべろ舐めてやるから♡

妾の愛、受け止めるんじゃぞ♡

くうううん……♡

おチンポ膨らんで……♡

尻穴っ、熱く……♡ くううっ、ほお♡

ぐぼぐぼ♡ じゅぶじゅぶ……♡

ぶっといのが出たり、入ったり♡

処女尻なのに、こんなに気持ちよく♡

媚殿チンポ♡ 弟チンポ、たまらんどお……♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん……♡

はっあああ♡ また、出てしまいそうか♡

ああ、よいぞ、出せ♡

妾もまた、イクからの♡

尻穴絶頂で……っ♡ イッてしまうから♡

そちもいっぱい、ケツ穴、中出し……っ♡

んあっ、あんっ、あっ、んあ、ああんっ♡

うっ、あっ、イッグ♡ イッグっ♡

ケツまんこっ♡ イグぞっ♡

うっ、おっ、あっ、あっああ……っ♡

イック♡ イック、んいっぐ♡ うううん……っ♡

はっ、ふっ、はっ、はああっ、くうううう……っ♡

くううあっ、はああっああああ……っ♡

うっ、ふっ、んっくっ、はああ……っ♡

ああ……っ♡ 熱い、ぞ……っ♡

尻の中に、どぶどぶ、射精……っ♡

熱いのが腹に……っ♡ 流し込まれて♡

おっ、おっ、んっうんう、くううう♡

はっ、はっ、はっ、はっああ♡

くっふうん♡

はぁ、はぁ、はぁ♡

ふふふ……♡

どうじゃ、媚殿♡ 妾の床上の實力は♡

確かに妾は処女じゃったが……♡

知識は存分にたくわえておったからの♡

すっかり慣れた雅との交わりと同じぐらい♡

いや、それ以上におチンポ、甘くとろかされてしまったじゃろう♡

ああ、よいぞ♡

もっとしたいのじゃろう♡

妾もじゃ♡ もっと妾も、愛する弟チンポ♡

味わわせてもらいたいからの♡

んっうん♡

ほれ♡ 今度はこうして、密着抱き着き、対面交尾♡

おチンポとおまんこだけじゃなく♡

身体中くっつき合わせて、一つに――

んっい……っ♡

あはっああん♡

はっあ、はあ♡

これ、婿殿♡ まだ妾が話している途中じゃと言うのに♡

おまんこずっぷり、おチンポ入れてしまうとは♡

おお、よしよし♡

我慢できなかったのじゃな♡ ああ、許す許す♡

待たせてすまなかったのう♡

さあ、ならば存分に交じわり合おう♡

頭の中……妾のことしか考えられなくなるぐらいになあ♡

ああ、んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ♡

やんっ、ああ、うあんっ♡

はっ、はっ、はっ、はああ♡

んうん……？ ふふ、おっぱいじゃと？

ああ、おっぱい、吸いたいのじゃな♡

もちろんよいぞ♡ ほれ♡

姉のおっぱいちゅうちゅう吸って♡

おチンポもっと、興奮するがよい♡

妾のおまんこも、おっぱいも♡

そちに甘えてもらって、うれしがっておるからのう♡

んっぁ……っ♡

おっぱい、ちゅうちゅう♡

すごい吸い付きじゃ♡ あっぁあ……っ♡

あん、うん、あん、あんっ、ん、んあ、はあ、あふ、ふあっ……♡

んっうむうん♡

はっ、ふっ、はっぁあぁ♡

ああ、出るんじゃない♡

よいぞ、出せ、出せ♡

妾の身体に抱き着いて……っ♡

おっぱいたくさんちゅうちゅう吸って♡

姉のおまんこに熱々精子♡

一番奥に……っ♡ くううん……っ♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っぁあ……♡

ああ、妾も、イクぞ♡

また共にイこう……っ♡ 共にっ、快感の中へ……っ♡

うっ、あっ、イクっ、イクっ♡

うううんっ、イック♡

あっ、あっ、あっ、はぁぁあぁ……っ♡

ふう、ふう、はぁ、はっああぁ♡

ぁぁ、とぶとぶ、お漏らし♡

子宮に精液、またたんまり♡ うっぁ♡

出しながら、さらにおっぱいちゅうちゅう♡

器用な男じゃの♡ ふふふ……♡

んうっ!?

はぁ♡ っはぁ、ふう♡

おいおい♡ 何をそんなに興奮しとるのじゃ♡

姉を押し倒すなど、まったくひどい弟――

はっぁぁぁ……っ♡

抜かずに、おチンポ……っ♡

連続抽挿じゃと……っ♡

まだまだ出来るというのか、そちは……っ♡

ぁは……っ♡

ぁぁ、よいぞ、よいよい♡

キンタマ空っぽになるまで付き合ってやろう♡

ほれ、全身でそちの身体、抱きしめて♡

妾の肉体で包み込むように、羽交い締めてやろう♡

よしよし、よしよし♡

いいこじやのう、そちは本当に♡

強いおチンポでメスを喜ばせ♡

快感と共に種付けし、孕ませる♡

妾もそちのこと、大好きになってきたわ♡

そちもか？ そちも妾を♡

姉上のこと、好きになったか？

おお、よしよし、いいこじや、いいこじや……っ♡

んっうん……っ♡

おチンポ、ぐんとまた、一際大きく……っ♡

っおお……っ♡

っはあ、はあ♡

で、あれば……っ♡ じゃな♡

姉上と呼ぶのは、やめてほしいの♡

ああ♡ 紅、と♡

紅様と呼べ♡ 恋人のように♡ いや♡

夫婦のように♡

妾の名を呼びながら、さらにおまんこ深く……っ♡

子宮深く、突いてくれい♡

はぁぁっぁぁぁぁ♡

ふっ、ふっ、ふっ、くぅぅぅ……っ♡

ぁぁ、そうじゃ、そうじゃ♡

そちに名を呼ばれる度に、おお……っ♡

おまんこが熱くなる♡

そちはもう、妾のものじゃ♡

雅などには返さぬぞ♡

そちもそれでいいじゃろう？

ぁんなやつよりも、妾の方が、よっぽど上手く♡

よっぽど淫らに、淫靡に……っ♡

そちのおチンポ、甘くとかしてやるからの……っ♡

はっぁぁぁぁ♡

っぁぁ、よい♡ よい♡ 出せ、出せ♡

妾の中にたんまりと出せ♡

妾のものにしてやろう♡

妾がそちのすべてを受け入れてやろう♡

じゃから、出せ♡

熱いの、たんまりとお♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう……っ♡

あああ、イク♡ おまんこ、イック♡

うっ、くっ、はっあああ……っ♡

イク、イク、イッグ、イッグ♡

出せ、出せ、孕ませろ♡

妾のことも……っ♡ そちの子種で♡

孕ませてみい……っ♡

んあ、んふう、うう、うあ、あう、んう、んっく、くう……っ♡

くううううう……っ♡ はああっああああ♡

はっ、ふっ、うっくうっ、はあああ♡

ふっ、ふっ、はあああ♡ ああ、熱い、ぞ♡

そちの精液、たっぷりの子種汁♡

妾の子宮が、真っ白い汁で、埋められて♡

うっ、ふっ、孕む、孕むぞ♡

そちの赤子♡ 必ず、孕むじゃろうな♡

幸せ射精、たっぷり♡

してもらったからのう♡

よしよし、よしよし♡

くっくくや、くっくくや♡

愛しておるぞ♡ 雅以上に、の♡

ふふ……♡ ふふふふふ……♡」

● 第4章

紅「んんんう……♡ んっああああ♡ んっうう♡

んあっ、ん、んあ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

ううううあっ♡ はっああああ……っ♡

くっ、ふっ、うっくう♡ はあああ♡

どくどく、びゅっびゅうう♡

熱いのたっぷり、また、いっぱい♡

はあ、ふう、はあ、はあ♡

ああ♡ すばらしい♡

そちとの交尾は、本当に♡

最高に気持ちがいいの♡

この神社でするとなると、より一層じゃ♡

ふう、ふう、ふう♡

ふふふ……♡

気持ちよかったの♡

だが、そちのことじゃ♡

まだまだ楽しませてもらえるんじゃない？

妾ならよいぞ♡

そちのおチンポであれば、何度だって……ん？」

雅「姉上……。

こんなところにいたのですね。

それも……我が愛する夫と共に。

一体何をしておられるのですか？」

紅「おお、雅。ふふ……。

見ればわかるじやろう？

こいつといっしょに、楽しく遊んでおったのよ。

お主がぞっこんにしている男が、どれほどのものかと、な……。

ずいぶんと楽しませてもらったぞ。

あん♡♡

彼も、ほれ♡ この通り♡

妾のことをずいぶんと好いてくれてのう♡

よしよし♡」

雅「姉上……。

その言葉はつまり、我が夫を寝取ったと……

お認めになったということでしょうか？

媚薬のお香を使った形跡があり、

もしかとは思いましたが……。」

紅「さあてな♡

お前の好きにせー

うぐ、あ……っ。」

雅「いくら姉上とはいえ……っ。

私や彼を侮辱することは許しません……っ。

命までは奪いませんが、相応の罰を……っ。

……え……！？

姉上……そのお腹の傷は……。」

紅「くく……。

お前が気に入るものではないわ……っ。

がは……っ。

げほ、ごほ……っ。

っふう……。」

雅「その傷は……やはり、あの時の……？」

それでは、姉上……っ。」

紅「気にするなと言っているであろうが。

もう良い。過ぎたことじゃ……。」

雅「しかし……っ。」

紅「そんなことよりも雅よ。

一つ提案があるのじゃが……聞いてくれるか？」

雅「は……？」

紅「あの男……妾によこさんか？

思う以上に気に入ってしまったてのお……。

正式に、妾のものにしたいなってしまったわ。

やつを妾の旦那にせい。

お前は別れてな。」

雅「な……っ！？」

そ、そんなこと……っ！？」

紅「わかっておるわかっておる。

皆まで言うな。

じゃから……昔のように勝負で決めるというのはどうじゃ？

勝負で勝った方が、あの男を旦那に迎える……。

どうじゃ、面白かろう？」

雅「何を世迷い言を……。

そんなことをせずとも、あの人はすでに、

我が夫です。

あなたにたぶらかされてしまったようですが……。

その程度で我が愛は揺るぎませんから。」

紅「ほう……逃げるのか？

一国の主が勝負を挑まれて敵前逃亡とは。

この国も先は長くなさそうじゃなあ。」

雅「なんですって……!？」

紅「よいか、雅よ。

この世は所詮、戦じゃ。

欲しいものは力づくで奪う。

それがこの世の理なのじゃ。

どこの国でも、それだけは変わらん。

お主とてわかっておろう。

この国を背負って立つものとして……。

好いた男ぐらい、その腕で奪い返してみよ。

まさか……無理です、勝てません……とは、

言うまいな？」

雅「……そこまで言うのであれば……。

わかりました。いいでしょう。

受けて立ちます……っ。」

紅「いよし♡ 聞いたな、媚殿♡

では、愛する男の妻となるのは誰か、

姉妹で種馬争奪交尾合戦じゃ♡」

雅「……は？」

紅「なあにをかつこつけておるのじゃ。

誰も剣で勝負とは言っとらん。

するのは媚殿との交尾合戦♡

どちらが媚殿を満足させられるかで、

妻となるのが誰かを決めるのじゃ♡

その方が、剣なんかより面白いじゃろう♡」

雅「……あ、姉上……。」

紅「それに……そろそろじやろう？

お主も、妾も♡

ほれ♡ 昇ってきたぞ♡」

雅「え……？ あ……っ♡

これは……っ♡ んう……っ♡

はあ……っ♡ んっあ、ふう♡」

紅「んっくう♡ はあ、はあ♡

婿殿のおかげで、母乳がこんなに溢れるようになったが……♡

何も問題はない♡

この状態で交尾合戦じゃ♡」

雅「え、ええ♡ わかりました♡

改めて、受けて立ちましょう♡

ふふふ……♡

さあ、旦那様♡

話は聞いておりましたね？

であれば、どうぞ♡

あなたの愛する妻である、この雅の元に♡

あ……っ♡

んっ、旦那様っ♡ やあ……っ♡

んうん、はあ♡

そんな♡ せっかくですから、真っ正面からしたかったのに♡

んひ……っ♡

後ろから、なんてえ♡

っあああ……っ♡

んっうん……っ♡ はあ、はあ♡

旦那様あ……っ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん……っ♡

ん、んあ、んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ、いやんっ♡

っあああん……っ♡

でもっ♡ おチンポっ♡ 硬くて……っ♡

こちら気持ちいいですっ♡

旦那様あ……っ♡「♡

紅「ふふふ……♡♡

さてさて、どう遊んでやろうかのう♡

そうじゃな、まずは♡

婿殿の尻の穴でも♡

堪能させてもらうかな♡

ちょうど味わってみたいと、

思っていたところじゃしの……っ♡

んうあ……っ♡

っほう♡ ふふふ……っ♡」

雅「っあああ……っ♡

おチンポっ♡ おっきく……っ♡ くうう……っ♡

姉上につ♡ お尻の穴を舐められてっ♡

興奮するなんて……っ♡

浮気はいけませんよ、旦那様……っ♡

んうあ、んっ、ん、んう、んっ……っ♡

やん、あんっ、いや、あん、あんっ、あう、うんっ、あ、んっ♡

うううう……っ♡ でも、これ……っ♡

いつもよりもさらにっ♡ おチンポっ♡

大きく、硬く……っ♡ はっあああ……っ♡

普段は届かないところまでっ、おチンポっ♡

ぐりいって♡

だ、旦那様……っ♡　っああああ……っ♡

おまんこっ、気持ちいい……っ♡

おチンポ熱いのっ♡　気持ちいいです……っ♡

ううううん……っ♡」

紅「ほほう♡

なるほど、媚殿はお尻を舐めてもらうのが好きなようじゃなあ♡

では、こういうのはどうじゃ♡

ほうれ、かわいいお尻い♡

ぺんぺんじゃ♡

尻穴舐められながら引っぱたかれるのは、

どういう具合じゃ？　ほれ、ほれえ♡

あはあ♡

尻穴がきゅんと締まったぞ？

気持ちよさそうじゃなあ♡

んふふ……っ♡」

雅「うううああ……っ♡

おチンポっ♡ かったい……っ♡

奥っ♡ 奥にっ♡ 深いところまでっ♡ 一気にいい……っ♡

くうっううん♡

おっぱい、出ちゃいます……っ♡

赤ちゃんのためのおっぱい……っ♡

母乳、溢れて……っ♡

んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ♡

ん、あん、はあ、ああん、うん♡

うううんっ♡ くうううん……っ♡

旦那様っ♡ 旦那様っ♡

ああっ♡ 興奮、止まらない……っ♡

くううううん♡「

紅「尻穴ひくひく動いておるぞ♡

これはもしや♡ 射精が近いのではないか？

そうじゃろう？ 雅の子宮に種付け精液、

注ぎたくなつたのじゃろう♡

いいぞ、いいぞ♡ 出してしまえ♡

ほうれ♡

っはぁ♡

かわいいお尻、ぜえんぶ舐め舐めしてやるからのお♡

尻穴も、尻肉もお♡

妾がいっぱい気持ちよくしてやるから♡

濃いのでいっぱい出してしまえ♡

とつとと雅に中出しして♡

次は妾のおまんこに、おチンポ挿入してくれい……っ♡

イケ♡ イケ♡ 出せ出せ♡ 出せえ♡」

雅「あんっ、あっ、んぁ、ああんっ♡

あぁ、あん、うん、うつぶ、うん、あは、あんっ、あんっ、あんっ♡

旦那様っ♡ はっぁぁぁ……っ♡

んううんあっ♡ イキますっ♡

私もっ♡ おまんこイキますっ♡

んううんうんあぁ……っ♡

はいっ♡ はいっ♡ 出してくださいっ♡

私のおまんこの感触♡

本当の妻の、愛情たっぷりこもったおまんこ、

味わって……っ♡

キンタマから熱いお汁をっ♡

孕ませ精液っ♡ たくさんっ♡

子宮にい……っ♡ 注いでくださあい♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああんっ♡

はっあああ……っ♡

イック♡ イック♡ イクイクっ♡ イッグうう……っ♡

んうあっ♡ はっああっ♡ んううあっ♡

うあっあああ……っ♡」

雅「んううあっああっあああ……っ♡

んっうううっ♡ くううううん……っ♡

うあっ♡ 旦那様っ♡ 熱々っ♡ 精子……っ♡

奥にたくさん、びゅーびゅー種付けえ♡

はっ、はっ、はっ、くううううん……っ♡

っああああん……っ♡

ふっう、ふっう、ふっう、ふっう♡

んうあ……っ♡

はあ、はあ、はあ、うううう……っ♡

ああ、旦那様あ♡」

紅「ふふ……♡ 次は妾の番じゃ♡

さあ、よいぞ♡ 今度はどうやって、

そちのおチンポ、楽しませてやろーうううっ!？

なっ、何をつ♡ んいっ♡

はあ、はあ……っ♡

な、なんじゃ、こ、この体勢は♡

う、後ろから持ち上げられて♡

お、大股、拡^くげて♡」

雅「ふう、ふう♡

ふふ……♡ 背面駆弁交尾♡

というわけですね、旦那様♡

ええ、どうぞ♡

人の夫を寝取ろうとする生意気な姉上など♡

どれだけ恥ずかしい目に合おうと問題ありません♡

そのままたっぷり、犯してあげてください……っ♡

紅「ま、待て……っ♡

こ、この格好でするのは、さすがに……っ♡

んうぁ……っ♡

くうううぁぁぁ……っ♡

はっぁぁぁ……っ♡ うっ、ふっ、うううう♡

おっぱい、溢れえ♡

はっぁぁぁん……っ♡

ま、待て……っ♡ 待てと、言っておるのに……っ♡

んううううん……っ♡

雅「ふふ……っ♡ どうぞ、旦那様♡

今だけは許しましょう♡

姉上を懲らしめる、恥ずかし固め交尾♡

どうぞおまんこずんずん突いて♡

いやしい女狐めを退治してください♡

私も、ほうら♡

はぁ♡

耳舐め♡

旦那様の乳首を、さわさわ、すりすり♡

いっぱいいいじって、お手伝いいたしますから♡

ふふふ……♡「♡」

紅「んふ、んっふ、ぁぁ、ぁぁ、ぁぁん、んぁん……♡

くうううん……っ♡

おチンポ♡ ずんずん♡ 奥♡ 奥うう……っ♡

下から何度も♡ 突き上げられて……っ♡

一番奥♡ いじめられてえ……っ♡

くっふううん……っ♡

はっあ♡ ううぁぁ……っ♡

気持ちいいっ、のじゃぁ……っ♡

恥ずかしいけど……っ♡ おチンポも、熱く、硬くうう……っ♡

おまんこ無理矢理♡ 感じさせられてるようで……っ♡

んううぁぁ……っ♡

はっ、くっ、うっくううっ、ふっうううう……っ♡

おまんこっ♡ ばちゅばちゅ♡

あぁっ♡ 気持ちいいいい……っ♡」

雅「ほうら、旦那様♡

もっとですよ♡

もっとおチンポ大きくして♡

おバカな姉上のおまんこなんて、

ぶち壊してしましましょう♡

あなたを無理矢理発情させて、

強制的に浮気させたあげく♡

正式に私からあなたを奪おうだなんて♡

それも、交尾勝負でそれを決めようなどとほざく、

間拔けな姉上を♡

あなたのおチンポで、いっぱい痛め付けて♡

二度とそのような考えを浮かべぬように、

思い切り♡

おかしくしてあげてください……っ♡

気をやるまで、たっぷり♡

犯してくださいね……っ♡」

紅「ううあっあああ……っ♡

深いっ♡ 強いっ♡ おチンポっ♡ 熱いい……っ♡

っあああっ♡ イクっ♡ イクのじゃっ♡

持ち上げられてっ♡ おまんこ突かれてっ♡

子宮奥までぶちあげられてえ……っ♡

ううおっ♡ はっあああ……っ♡

ばんばんどちゅどちゅっ♡ 子宮いじめっ♡

赤ちゃんのお部屋っ♡ 突かれてえ……っ♡

イグイグイグイグっ♡

イグイグイグイグうう……っ♡

んううあっ♡ くううあっ♡ はあああ……っ♡「♡

雅「どうぞ、出してください♡

熱い精液、お射精どうぞ♡

姉上のおまんこなど、性処理道具にしまっ♡

ずっしりキンタマ軽くするためのおもちゃみたいに、

精液どびゅどびゅ、出してしまってください♡

ほうら、乳首くりくり、くりくりかりかり♡

あなたが喜ぶよう、

たっぷり乳首、気持ちよくしてあげますから♡

さあどうぞ♡ どうぞ♡ どうぞ♡

いっぱい出してください♡

おチンポすっきりしてください♡

どうぞ、どうぞ、どうぞ、どうぞお♡」

紅「うううあっああああ……っ♡

イグイグイグイグっ♡ イッグっ♡

イッグうううう……っ♡

おまんこイッグっ♡ イグのじゃっ♡

イグのじゃああああ……っ♡

強いおチンポぶちこまれてっ♡

ひっぐううううう……っ♡

うっ♡ うっ♡ うっ♡ うっううう……っ♡」

紅「はぁあっあぁっあぁあ……っ♡

んっいいっ♡ んっひっいっ♡

うっうっうっ……っ♡

びゅっぐ♡ びゅっぐ♡ 熱いの、出てる♡

ぁぁ♡ 中にいっぱい♡

注いでくれて♡ ふっ、ふっ、ふっぐ、うっうっ……っ♡

ぁぁ、気持ちいい♡

恥ずかし交尾で精液中出し♡

最高じゃあ♡

ふう、ふう、ふう、ふう♡

んっくう♡ はぁ、はぁ♡」

雅「さぁ、これでわかったでしょう、姉上♡

この人は紛れもなく、我が夫であるとーひゃあっ!?

あっ、んっ、旦那様……っ!?

ぁぁ……っ!?

まさか、私まで♡

くっううん……っ♡

はっぁぁぁ……っ♡

んっうあっ、あっふっ、おっ、んっお、んっっ♡

んいいい……っ♡ はっ、はっ、んっふう、はあああ……っ♡

んっうあああ……っ♡」

紅「おっほ♡ やるのう、媚殿♡

そうかそうか♡

さっきのは、妾へのこらしめではなく、

手前の性欲を処理するための交尾に過ぎなかったという訳か♡

おお、よいぞよいぞ♡

であれば雅のおまんこも、そのために犯し尽くしてしまえ♡

ほうれ、妾も♡

っはあ♡ 先の雅と同じよう、

耳舐めと乳首責めで、たっぷり愛してやるからのお♡

そうら♡ 乳首すりすり♡

撫で撫でしゅるしゅる♡

おーおー、乳首が硬いのお♡」

雅「旦那様……っ♡ そんな……っ♡

ひびく、です……っ♡ っあああ……っ♡

でもっ♡ だけどっ♡ おチンポっ♡

性欲処理に使われてるだけでもっ♡

おまんこずんずんっ♡ 犯されてえ♡

あなたの愛する妻のおまんこっ♡

感じてしまっています……っ♡

くっふううう……っ♡

はっ、はあっ、んっあっ、はああ……っ♡

はっあああ……っ♡

気持ちいいっ♡ おまんこっ♡

気持ちいいですっ♡

恥ずかしい格好でっ♡

軽々持ち上げられてっ♡ おまんこどっちゅん……っ♡

身体の奥からっ♡ 熱くっ♡

なってきてしまいます……っ♡

はっあああ……っ♡「♡」

紅「ほうれ、ほうれ♡ ずんずんどちゅどちゅ♡

ばちゅばちゅぐちゅぐちゅ♡

いっぱい甘やかされるのもよいが、

こうして勇ましく犯し尽くすのもよさそうじゃのう♡

そちのおチンポ、ギンギンに硬く♡

雅のおまんこ押し広げて♡ ぐっぽ♡ ぐっぽ♡

愛液だらだらの恥ずかしいメス穴♡

何度も犯しおる♡

かっこよいぞ、媚殿♡

見ているだけで♡ 惚れ直してしまいそうじゃ♡

んふふふふ……♡」

雅「うっ♡ うっ♡ うううっ♡

くううううう……っ♡

はああっあああ……っ♡

おっぱい、止まりません……っ♡

おまんこたくさん、犯されて……っ♡

子宮までぶちゅりっ♡ おチンポっ♡

くつつけられてっ♡ ほじられてえ……っ♡

っああ……っ♡ またイク♡ またイクっ♡

おまんこイギますっ♡ 旦那様……っ♡

強烈おチンポ出し入れでっ♡

おまんこまたっ♡ 愛妻おまんこっ♡

イカされますう……っ♡

旦那様っ♡ 旦那様っ♡

あなたっ♡ 好きっ♡ 好きっ♡

好きいいいい……っ♡

うっ、ふううっ♡ くうううっ♡

はぁあっぁあぁあ……っ♡

んっいいいい……っ♡」

紅「ほれ、出せ出せ♡

まだまだ重たいキンタマから、どっぷりオス汁♡

いっぱい漏らせ♡

たくさん出るよう、乳首くりくり何度もさすってえ♡

勃起乳首たっぷり感じながら、熱いの出すんじゃぞ……っ♡

ほれ、イケ、イケ♡ 出あせ♡ 出あせ♡

濃いのたっぷり、どびゅどびゅぶっびゅう……っ♡

お嫁さんおまんこに♡ 愛情なんぞない♡

性処理射精で種付けしろ♡

びゅーびゅーびゅくびゅく♡ どっぷり出せえ♡」

雅「んっ、んっ、んっ、んうう……っ♡

んううああああ……っ♡ 旦那様っ♡

イグイグイグイグっ♡ んいっぐっ♡

ひっぐううう……っ♡

うううあっ、んううああっ♡

くううんっ、はっあああ……っ♡

うっ♡ あっ、あっ、はああっああ……っ♡

んいっぐうううう……っ♡「♡」

雅「ううあっああっあああ……っ♡

んううっいいいい♡ くううううう……っ♡

ほっおう……っ♡

ううあっ♡ おっぱいっ♡ 出てるっ♡

中にたくさんどびゅどびゅ出されながら……っ♡

おっばい、溢れちゃいますぅ……っ♡

んっううん……っ♡

はっ♡ はっ♡ ふっ♡ はあああ……っ♡

はーあ♡ はーあ♡ はーあ……っ♡

んっううう……っ♡

っへあ♡

ううう、ふう、はあ♡「

紅「おっと♡ 媚殿……？

まさか、まだするとか……？

おいおい、これで一体、何発目ーんひっ♡

んっう、はあ……っ♡

また後ろからか……っ♡

そろそろ妾も、前からおチンポ……っ♡

んっいいいん……っ♡

おチン、ポお♡ 入れて欲しい、のお♡

っふう、ふう、っはあ、はあ……っ♡

くううう……っ♡

まあこれも、気持ちいいから……っ♡

問題、ないがのお……っ♡

あはぁ……っ♡

雅「ふう、ふう、ふう♡

旦那様♡

お腹が熱く♡ 子宮がとっても、幸せです♡

あなたにとっては、性処理交尾なのやもしれませんが……♡

私にとっては、それも子作り交尾♡

あなたにおまんこ犯してもらうのは、妻として♡

最上の幸福です……っ♡

っはぁ♡

お尻、いっぱい舐めてあげますから♡

あなたもどうか、もっとたくさん、

気持ちよくなってください♡」

紅「うううん……っ♡

あああっ♡ おチンポっ♡ あっっいっ♡

先ほど中出しされたっ♡ 子宮……っ♡

まだまだっ♡ これでもかとっ♡

押し潰しにくるっ♡ 交尾い……っ♡

っああああ……っ♡

あっ、んっあ、んうああ……っ♡ はああ……っ♡

くううう……っ♡ こんなおチンポっ♡

強いおチンポ……っ♡

甘えたチンポでも♡ お遊びチンポでもないっ♡

本気の孕ませ種付けチンポお……っ♡

奥に押し込まれるのっ♡ いい……っ♡

気持ちいいのじゃ……っ♡ っあああ……っ♡

うっ♡ あっ♡ んうああっ♡ くっふうふう……っ♡

くっうううん……っ♡」

雅「ああ、旦那様♡

ぶら下がるキンタマも、まだこんなにたぶたぶで♡

まだまだたんまり精液、吐き出せそうですね……♡

さすが旦那様です♡

ですが……っ♡

その相手が私でないということが……っ♡

とっても、妬ましいのも事実です……っ♡

性欲処理だろうと、浮気は浮気……っ♡

私とだけ……っ♡

おまんこしていただきたかったのに……っ♡

旦那様……っ♡ 愛しております……っ♡

愛してはおりますが……っ♡

うううう……っ♡ バカ、バカあ……っ♡「♡」

紅「うううっ♡ くうううう……っ♡

雅、めえ……っ♡

そちもっ♡ 妾のおまんこほじくりながらっ♡

んううああ……っ♡

痴話げんかなどっ、するでないっ♡

んっううう……っ♡

せめてっ♡ 妾のおまんこにっ♡

おチンポ集中させてえ……っ♡ くうううう……っ♡

あっく、んっうう……っ♡

はっああああ……っ♡

さもないとっ♡ 妾も……っ♡

嫉妬してしまうじやろう……っ♡

ほら、もっとおまんこ……っ♡

いっぱい突いてくれ……っ♡

雅のケツ舐めなぞよりっ♡ 妾のっ♡

おまんこお……っ♡

んううんっ♡ くううう……っ♡

んっひいっ、はああ……っ♡

はっあああ……っ♡」

雅「旦那様♡

射精してしまいそうなのですね……♡

わかりますよ♡ 私はあなたの妻なのですから♡

いいですよ♡

浮気射精♡ どうぞ、出してください♡

ただし♡

っはあ♡

お尻で私の舌をたっぷり感じながらの、お射精♡

例え浮気中出ししていようと♡

それは私の♡

愛する妻の手助けがあつてのことだと……っ♡

おチンポに刻みつけながら、射精してください……っ♡

であれば、よろしいですよ……っ♡

ほら♡ お射精どうぞ♡

おチンポたくさん、お出ししてください……っ♡

たっぷり、どびゅどびゅう……っ♡「

紅「くうううう……っ♡

あっ、っはあっ、んううあっ、はああ……っ♡

っああ、イグ♡ イグイグ、イッグ♡

おまんこ、イグぞ……っ♡

強いおチンポで奥っ♡ つつかれて……っ♡

ばちゅばちゅどちゅどちゅっ♡

子宮の奥までっ♡ 犯されてえ……っ♡

ううううう……っ♡

イッグ♡ イッグ♡

また母乳、いっぱい嘔き出しながらっ♡

イッでしまっうっ……っ♡

くうああああああ……っ♡

んいっぐ♡ イッグ♡ イグイグっ♡

くううあああ……っ♡

あっ♡ うっ♡ ああああっ♡ ううああ……っ♡

イッグ♡ イッグ♡ イッグ♡ ひっぐううっ……っ♡

ううううう……っ♡

あっあああっああああ……っ♡「♡」

紅「んうっいっいっいっ……っ♡

んっいっ♡ んっひっ♡

ふううあああああ……っ♡

うううあああっあああ……っ♡

おっ♡ うっ♡ 出とるっ♡ また……っ♡

おまんこの奥っ♡ 子宮にっ♡ ぶりゅりゅっ♡

どろっどろのっ、濃厚な……っ♡

餅のような濃さの孕ませ汁が……♡ はっあああ……っ♡

おお♡ 重い♡ 熱い♡

子宮がぽかぽか、あたためられて♡

はっ♡ はっ♡ ふっ♡ はああ♡

ああ、婿殿♡

このおチンポ♡ 妾もお♡

ふう、はあ、ふう、ふう♡

んっうう……っ♡ っほお♡

うっふうう♡ ふう、ふう♡「

● 第5章

紅「ふふふ……♡♡

あれで終わりと思うたか？

まだまだ勝負は終わってはおらん♡

今度はこの浴場で続きじゃ♡」

雅「急にお風呂に誘ってきたので、

怪しいとは思っていましたが……。

やはり、そういうことでしたか。」

紅「ほれほれ、まずはおっぱいでも吸って、

おチンポを元気にするがいい♡

せっかく母乳が出るようになったのじゃ♡

飲まないことには始まんじやろ♡」

雅「く……っ。

旦那様……っ♡ それでしたら、こちらもどうぞ♡

あなたの妻の、あなたのために溢れさせた母乳です♡

姉上のものより、美味しいですよ♡

紅「ほうれ、母乳の飲み比べじゃ♡

いっぱい吸って、どちらが美味いか、

確かめてみよ♡

雅「んっあんっ♡」

紅「はっあんっ♡」

雅「旦那様……っ♡ ううんっ♡

おっぱい、ちゅうちゅう……っ♡」

紅「二人、同時とは……っ♡

なかなかやるの♡ んっひっ♡

じゃが、これでは味比べにならんじゃろう♡

んっうん、はぁ……っ♡」

雅「いえ♡ いいですよ、旦那様♡

あなたのしたいように、おっぱい♡

飲んでくださいね……♡

さあ、おチンポも♡

湯船の中で、たっぷりしこしこ、させていただきます♡

紅「妾もするぞ♡

おチンポも共に、しこしこしづいてやるわ♡」

雅「ほうら♡ しこしこ、しこしこ♡」

紅「おチンポしゅっしゅう♡

♡しづしづしづしづ♡

どうじゃ？ 気持ちいいか？ んうん……っ♡」

雅「おっぱいたんまり吸いながら、

おチンポしごかれるの♡

いかがですかぁ♡

うううん……っ♡ はぁ、はぁ♡

美味しそうにぐくぐく飲んで♡

幸せそうですね、ふふふ……♡」

紅「っぁぁ♡

おっぱい、すごい勢いで吸い出されて……っ♡

んっ♡ んっ♡ んっくっ♡ ふぅぁ……っ♡

はっぁぁ♡

ぁぁ、たまらんどぉ♡

そちにおっぱい吸ってもらうのが……っ♡

こんなにいい気分だとは♡

おぉ、よしよし♡ いいこじゃぞぉ♡

いいこじゃから、もっといっぱい、

おっぱいぐくぐく、飲んでくれい♡」

雅「よしよし、よしよし♡

さぁ、旦那様♡

こちらもどうぞ♡

母乳ばかりで口飽きするお口に♡

はぁ♡

甘い唾液を合わせれば、さらに美味しく、おっぱいが……ぁんっ♡

はい……っ♡ そうですよ……っ♡

唾液と母乳、口の中で混ぜ合わせて……っ♡

美味しくぐっくん……っ♡

はっぁぁ♡」

紅「こちらじゃ♡

妾のよだれも、たっぷり飲め♡

っはぁ、ふう♡

んうぁ……っ♡

ぁぁ、さらに強く、おっぱいちゅうちゅう♡

そんなに美味しそうに吸われたら……っ♡

また、おっぱい漏れる♡

くっううん♡ はっ、はっ、はぁぁぁ……っ♡

雅「旦那様♡ んう……っ♡

おチンポ、お漏らししちゃいそうなのですか♡

ええ、いいですよ♡

甘いおっぱい、たくさん飲んで♡

興奮したおチンポから、とろとろおチンポ汁、甘く漏らしてくださいね

……♡

紅「妾のおっぱい飲みながら……♡

いっぱいキンタマ汁、出すんじゃぞ♡

ほれ、おっぱいちゅうちゅう♡ ちゅっちゅっちゅう♡

んっくう♡

雅「っあああ……っ♡ 旦那様♡

おっぱいぐくぐく、いつもお上手です♡

よしよし、よしよし♡

はあ、はあ、はっあああ♡」

紅「さあ、出せ♡ いいこじゃからなあ♡

おチンポびゅるびゅる、たくさん出せ♡

ほうれ、ぴゅっぴゅじやぞお♡」

雅「どうぞ、どうぞ、旦那様♡

あなたのたっぷりチンポ汁♡

たくさん出してくださあい♡

はい、はい、はあい、はあい♡

びゅっびゅっびゅっびゅう♡」

紅「んっはあ♡

はあ、ふう、はああ……っ♡

ああ、出とるぞお♡

湯船の中に、とっぷん、とっぷん♡

ふふふ……♡

っああ♡ 出しながら、まだおっぱい、ちゅうちゅうと♡」♡

雅「っうん♡

さすがですね、旦那様♡

精液お漏らしも、とってもお上手で♡

ふう、ふう♡」

紅「何？ まだ出し足りないと言うのか？

ふふ……♡ 仕方がないの♡

ならば今度は、こうやって♡

おチンポ、妾のあったかい太ももで♡

むっちり挟み込んでやろう♡」

雅「ダメです、姉上♡

するならまた、私も共に♡

二人の太ももでおチンポ、挟んであげないと♡

ほうら、ぎゅっ♡」

紅「なんじゃ、雅よ♡

焦りおって♡ 妾に夫をとられるのが、

そんなに嫌か？」

雅「当然でしょう♡

絶対にこの方を、あなたになんか、

あげませんから♡

ほら、旦那様♡ 太ももコキ♡

始めますよお♡」

紅「ずり、ずり♡ ずりゆずりゆ、ずりりゅう♡

どうじゃ♡ 妻のむっちむちの太ももは♡

おチンポむにゅうと挟み込まれて、

いい心地じゃろう♡」

雅「私の太もも負けてないはずです♡

ほら、旦那様♡

姉上なんかより、愛する妻の肉感たっぷり太ももで、

おチンポたっぷり感じてください♡」

紅「ふふふ……♡♡

おチンポがまた、ガッチガチに硬くなって♡

ほれ、おっぱいもまた飲んでよいぞ♡

まだまだたんまり出るからのお♡

んっうん……っ♡

あっ、んっ、はっああ♡♡」

雅「ああ、旦那様♡

また、～人分の乳房を同時に、ちゅうちゅう♡

ふっ、はっ♡ んっくうんっ、はっあん♡

ふふふ……♡

とっても幸せそうなお顔♡

こちらもしっしょに、幸せになってしまいます♡」

紅「そちのそんな顔を見ると♡

こんな勝負をしているのが馬鹿らしくなってくるのう♡

しかし♡ これも妾の未来のため♡

ここはしっかり、勝ちに行かせてもらうぞ♡

ほれ♡ また口の中に、妾の涎♡

送ってやるぞお♡

っはあ♡

いっぱい飲んで♡ 妾とっしょにいる方がいいと♡

思い込ませてやるぞ♡

雅「ダメです♡ あなたは私と共にいなければ♡

私の愛する旦那様なのですから♡

妻である私と共にあるのが、当然なのです♡

さあ、旦那様♡

もっと私とも、口づけを♡

はぁ、旦那様♡

愛しております♡

いいこですから♡ 私にもっと、

甘えてくださいね……♡

紅「んっうん♡

チンポがビクついて♡ はぁ、はぁ♡

太ももコキでまた、おチンポお漏らし、近付いてきたんじやな♡

ううん♡

おっぱい吸う力もまた、さらに強く♡

ううう……っ♡

雅「ええ、どうぞ、よろしいですよ♡

私たちのむっちり太ももに包まれながら……♡

また気持ちよく、甘々射精♡

しましゅうね……♡

母乳でお腹をいっぱいにしなが……♡

キンタマの方は、空っぽに♡「♡

紅「よしよし、よしよし♡

またかっこいいお漏らし、見せてくれ♡

ずっしり重たいキンタマから、

精子のたっぷり詰まった、濃厚子種汁♡

どぶどぶ出すんじゃぞぉ♡

ほうれ、ほうれ、いいこ、いいこ、いいこ♡

出せ、出せ、出あせ♡

おっぱいちゅうちゅう飲みながら……♡

おチンポどっぴゅん♡」

雅「んっはぁ♡

っぁぁ♡ 出てます♡

湯船の中なのに、熱を感じる、とっても熱い精液が……♡

はっぁん♡

うううん♡

出してる最中に、強くおっぱい、ちゅばちゅばと♡

私もいっぱい、おっぱいを漏らしてしまいました♡」

紅「ふう、ふう、ふう♡

ぁぁ、すごいぅ♡ そちは♡

悔しいが……♡ 妾もそろそろ、本気でそちを、

妾のものにしくなってきた♡

はぁ、はぁ♡

ほれ、入れるぞ♡

今度は手や太もなどと、けち臭いことは言わん♡

妾のおまんこに♡ にゅっぷり挿入♡

はっぁぁあん……っ♡

はぁ、っぁぁぁ……っ♡

っはぁっ、っはぁぁ……っ♡ んっううん♡「♡」

雅「く……っ。

恍惚としている間に、姉上に抜け駆けを許すとは……っ。

しかし♡

旦那様を喜ばせる手段は、

おまんこだけではありませんから♡

ほうら、旦那様♡

お背中におっぱい、むぎゅっと押し付けて♡

おっぱい、こすりつけてえ♡

んっ♡ あっ、んっうん♡

乳首がこすれて、気持ちよく……っ♡

んっふ……っ♡ くっうんっ♡ はぁぁ……っ♡

はっぁぁ♡

いかがです、かぁ♡

母乳を背中にこすりつけながらぁ♡

っふう♡

耳舐めを♡」

紅「はっ♡ はっ♡ おチンポっ♡ おっき……っ♡

今日はこれでっ♡ 何発出しとるんじゃったか♡

っううん……っ♡

まだまだ全然、萎える気のないおチンポ♡

しばむ心配のないキンタマぁ♡

メスを孕ませることに、一分の隙もないおチンポ……っ♡

すごすぎるぞ……っ♡

うううん……っ♡ あぁぁ……っ♡

こんなに強いおチンポの主っ♡

毎日のようにっ、ずばずばっ♡ ばちゅばちゅ……っ♡

熱く交わり、孕ませ子作りを続けていたら……っ♡

あっという間に妊娠してしまうのも、無理はない……っ♡

妾もきつと……っ♡ すぐにっ♡ そちの子を……っ♡

何人も、何人もお……っ♡

はっぁぁぁ♡」

雅「ふふ……♡ 姉上は、旦那様のおチンポの魅力に、

骨抜きにされているようです♡

この機を逃してはいけませんね……♡

ほら、旦那様……っ♡ もっとおチンポ、

硬くしてください♡

たくさんおっぱい、ずりずり、こすりつけてあげます♡

母乳噴き出すももっと♡

くうん♡ いっぱい、背中に染みこませますから♡

姉上のおまんこ、イカせてください♡

生意気な姉上に、あなたの強さ、わからせてあげてください……っ♡」

紅「あっ、あっ、んっあっ、はぁぁ……っ♡

んっ、あっ、あっ、あああ……っ♡

くっううん……っ♡

イグ♡ イグ♡ おまんこっ、もうイグ……っ♡

はっあああ……っ♡

イクぞっ♡ イクからっ♡ 出してくれい……っ♡

中にいっぱい、熱いの、びゅーっと……っ♡

妾の中に、どびゅどびゅっ、びゅるるウ♡

濃いのをたくさん、どばどば、出して……っ♡

妾のおまんこ、温かく……っ♡

気持ちよく……っ♡

はっあああ……っ♡

イグ♡ イグ♡ んいっぐうっ♡

くっううん……っ♡

はっ、ふっ、はっ、はっ、はっああんっ♡

はっあああ……っ♡

あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっあああ……っ♡

紅「くっうあっあああ……っ♡

んうんうあっ♡ 中出しっ♡

熱いっ♡ どくどく、どばどばあ♡

ああ、濃いのがたくさん……っ♡

いっぱい、中にい……っ♡

ほっおう……っ♡

ふっう、ふっう、ふうう♡

はあ、はあ、はあ、はああ♡

んっはあ♡ はあ、ふう、はあ、はあ♡

んうっ!?!」

雅「さあ、旦那様♡ 次は私の♡

あなたの妻のおまんこですよ♡

横恋慕する姉上などには、負けません♡

あなたのおチンポを一番気持ちよくしてあげられるのは♡

私なのですから……っ♡

んっうん……っ♡ ああ……っ♡

旦那様あ♡

くっうん……っ♡ はあ、はあ♡

旦那様のことを想い過ぎて……っ♡

また、おっぱいが……っ♡

あっ、あっ、あっ、あっ、あああああ……っ♡

っはああ……っ♡「♡」

紅「ふう、ふう♡

確か、こうじゃったな♡

背中におっぱい、こすりつけて♡

母乳を……っ♡ うっくう♡

はっあああ♡

乳首ぎゅうぎゅうすりつぶして……っ♡

おっぱい、溢れてしまう♡

はあ、はあ♡

気持ちいいぞ♡

そちとの交わり♡ 最高に♡

雅は横恋慕などと言ったが……♡

確かに妾は♡ そちのこと、

本当に気に入ってしまった♡

女として、自分のものにしたいと、

想ってしまった……っ♡

そう思ったからには♡

なんとしてでも、手に入れないと……っ♡

女が廃るじやろう……っ♡

ふふふ……っ♡
「♡」

雅「っはあっ、っはあっ、んんっ、はっ、ふうっ、っはあっ♡

ああああ……っ♡ んっくうあ♡ んっいい……♡

旦那様……っ♡

姉上の言葉など、聞かないように……っ♡

私が愛する旦那様は……っ♡

甘言に軽く乗るような、

そんな男ではないはずですが……っ♡

それでも、聞かないに越したことはありません、からあ……っ♡

それよりも、んっうん……っ♡

はっ、ふっ、はっ、はっ、はあっ、んうあああ……っ♡

んうあああっ、ああああっ、あっ、うああっ♡

はっああ……っ♡

私との……っ♡ 母乳まみれの、夫婦交尾を楽しんだ方が……っ♡

何倍も、楽しいですからね……っ♡

ね、旦那様♡

ふふふ……♡」

紅「甘言などではないわ♡

今、妾は本気でそちを好いておる♡

そちの子供を孕んで産みたい♡

我らの子を産んで……っ♡

大事に育ててやりたいと、思っておるのじゃ……っ♡

わかるじやろう？ そちなら♡

妾の本気の思い♡

っふう、っふう、ふうん♡

っあああ……っ♡

嘘やでまかせを言っている……っ♡

こんな、熱い母乳は出せぬ♡

そちのために♡ そちの子のために♡

おっぱい、溢れておるのじゃからあ♡

んっうんっ、はっああ♡

雅「んっうん……っ♡

旦那様……っ♡ おチンポが、奥に……っ♡

はい……っ♡ 出したいのですね、うっくう……っ♡

どうぞまた、いっぱい中出し……っ♡

あなたの精液を受け止める、あなたの妻のっ、

赤ちゃんのお部屋に……っ♡

たくさん射精してください……っ♡

はっ♡ はっ♡ はっ♡ っうん……っ♡

私も、いっしょです……っ♡

いっしょにイキます……っ♡

大好きなあなたと共にっ♡ 絶頂お……っ♡

ああっ♡ んうああっ♡

イクっ♡ イックっ♡

おまんこっ、イキます……っ♡

んっうんっ、はっああああ……っ♡

うっ、あっ、イッグ♡ イッグっ♡

あなたっ♡ 好きっ♡ 大好きっ♡

大好きですう……っ♡

ううあっ♡ んうんうあっ♡

うううっ♡ くうっううう……っ♡

イック♡ イック♡ イック♡ イックう……っ♡
「♡」

雅「んううううん……っ♡

っあああっ♡ ふうあああ……っ♡

はっ♡ はっ、っあんっ♡ っあああ……っ♡

孕ませ射精い♡

またすごい、勢いで……っ♡

はっああああ……っ♡

おまんこ、喜んでおります♡

あなたの赤ちゃん、もっと孕みたいって♡

あなたと二人で幸せになりたいと♡

喜んでおりますよ……っ♡

ふふ、ふふふふふ……っ♡
「♡」

●第6章

紅「次はこの天守閣にて勝負じゃぞ♡」

雅「く……っ。

ここは私と旦那様の秘密の場所だったのに……。」

紅「そうら♡ とつと始めるぞ♡

妾のこの魅力的なデカ乳で♡

おチンポ挟んで、揉みくちやにとろかしてくれる♡」

雅「私もおっぱい、いっしょに押し付けてあげますね……。♡

私と姉上、二人分のおっぱい♡

どちらがより心地いいのか、比べてください……。っ♡」

紅「ほうれ♡ ずりずり♡ ずりずり♡

おっぱいぎゅっつと力を込めて……。っ♡

おチンポ圧迫う♡

つくう♡

この力のかけ方♡ 母乳が溢れてしまう♡」

雅「柔らかおっぱいにおチンポが沈んで♡

あったか母乳でおチンポもぬくまって♡

気持ちよさそうですね、旦那様♡

ふふふ……♡

さあ、私のも、どうぞ♡

母乳、いくらでもありますから♡」

紅「ほれほれ、ほうれ♡

ぎゅうぎゅうむにむに♡

チンポたっぷり、乳圧かけて♡

奥から精液、搾り出すぞ♡」

雅「おっぱいの中で、おチンポびくびく震えております♡

んう♡ とろとろのお汁、溢れて♡

我慢汁、漏らしてしまったのですね……♡」

紅「ふふ……♡ ならば、そのお漏らしチンポ♡

この口で、しゃぶってやろう♡

んうぁ……っ♡

っはぁ♡

あぁ、相も変わらず、いい味じゃのう♡」

雅「私も……っ♡

っふう♡

旦那様の味がします……っ♡

普段よりもやや濃い味なのが、気にかかりますが……♡」

紅「それは妾がいるからじゃろうな♡

おチンポがいつも以上に興奮して、

濃厚我慢汁が漏れておるのじゃ♡

っはぁ♡

量もすごいしのう♡」

雅「恐らくそうなのでしょうが……。

だからこそ、複雑な気持ちなのですよ……。

あなたに気持ちよくなってもらうこと自体は、

こちらとして問題ないのですが……。

かといって、こんなことでは……。

んう……っ♡

っはぁ♡

今は考えていても仕方ありません♡

とにかくあなたに、楽しんでもらわないと♡」

紅「そうじゃそうじゃ♡

ほれ、またおチンポしゃぶってやるぞぉ♡

んっう……っ♡

っはぁ♡」

雅「……だというのなら、同じようにおチンポ、

おしゃぶりしていても、意味はありませんね……♡

私だからこそ、できること♡

例えば♡

んうぁ……っ♡

っはぁ♡

こうして、キンタマしゃぶりなど♡

いかがですか？

ふふふ……♡」

紅「な、なにぃ……っ。

キンタマをそんな啗え込んで、じゅるじゅるすするなど……。

や、やるではないか……。

ならばこちらも……っ♡」

雅「あ……っ。

マネをしないでください、姉上……っ。

旦那様のキンタマは、私のモノなのですよっ。」

紅「うるさいわっ。

妾にも丸々太ったキンタマ、

しゃぶらせい……っ♡」

雅「くう……っ。

負けません……っ♡」

雅「はあ、っふう、はあ♡

おっぱいの谷間に、我慢汁だまりが出来て♡」

紅「キンタマ舐めしゃぶられて、

そんなに感じておるのか♡

くくく……っ♡」

紅「おっぱいでおチンポ潰されながら、

キンタマまでしゃぶられて♡

精液、昇ってきたようじゃな♡

どくんどくと、脈打っておるぞ♡」

雅「よろしいですよ、旦那様♡

いつでも射精していただいて……っ♡

ほぅら♡

っはぁ♡

母乳でさらに、おっぱいの中、

気持ちよくしてあげますから……っ♡」

紅「くっうん……っ♡

さぁ、トドメじゃ♡

最後はおチンポ、思い切りすすってやるからの♡

いっぱい精子、漏らすといいぞ♡」

雅「出してください、旦那様♡

私たちのおっぱいに♡

どろどろおチンポ汁を♡

存分に……っ♡」

雅「おチンポどうぞ♡ おチンポどうぞ♡

お射精、どうぞお♡」

紅「出せ、出せ♡ おチンポ出せ♡

イケ、イッケ、イケ、イケえ♡」

雅「んっううん……っ♡

んっうっ♡ んっく♡ んっあっ♡ んっうん♡」

紅「んっううっ♡ ふっうう……っ♡

んっ♡ んっ♡ んっううん♡ んっううん♡」

雅「んっえあ……っ♡

ふっ、っふっ、っふうん♡」

紅「んっは♡

んっう、んっううん……っ♡」

雅「んっぎゅ♡

ん♡ んぎゅん♡ んぎゅゝゝぎゅん♡」

紅「んっうん……っ♡

んっぐ♡ んっぎゅ♡ んっぎゅ♡ ゴック♡」

雅「っはぁ♡ ふう、はぁ♡」

紅「ぁぁ♡ 精液の味♡

匂い、喉越し♡ たまらんのう♡」

雅「本当です♡

さすが我が愛する旦那様♡

精液とっても美味しいです♡

ふふふ……♡」

紅「さてさて♡

それではお次はどうしてやろうかーぬっ?」

雅「旦那様……っ♡

っはぁ、ふう♡

おいしい精液をいただいたら……っ♡

おまんこ、我慢できなくなっていました♡

今度のはあなたもお好きな、この私の♡

本気杭打ち騎乗位にて♡

おチンポ搾り♡ させていただきますね……っ♡

ほら♡ おチンポに、びしょぬれのおまんこ、押し当ててえ♡

んっくぅ……っ♡

あなたの視界に、私以外の何も入らないよう、覆い被さり♡

ずうっと見つめ合いながら……っ♡

おまんこ子作りいたしましょう♡

はっぁあん……っ♡

ぁあっ、んうぁぁぁ……っ♡ はっ、はぁっ♡

ふうううっ、んうぁぁぁ……っ♡

はっぁぁぁ……っ♡

旦那様ぁ……っ♡「

紅「やるのう、雅♡

激しいおチンポ奉仕……いや♡

これではまるで、捕食されているように見えるがの♡

おお、よしよし♡ 大丈夫じゃぞ♡

怖くない、怖くない♡

ほれ、妾のおっぱいでも飲むといい♡

んっうん♡

ああ、そうじゃ、そうじゃ♡

またたっぷり吸って♡

くうん♡

いっぱい飲むんじゃぞお♡

はっあ♡」

雅「はあっ、はあっ、んっあ、あああ……っ♡

あああっ、ああああっ、っんんっ♡

旦那様……っ♡

愛しております、旦那様……っ♡

私の夫は、あなただけです……っ♡

私が妻となるのは、あなた以外には、考えられません……っ♡

大好きです……っ♡ あなたを守るためならば……っ♡

私のすべてをかけて、この国ごと、あなたを守ります……っ♡

他の人など渡しません……っ♡

このおチンポを気持ちよくしてあげられるのはっ、っああ……っ♡

くううん……っ♡

あなたと本気子作りおチンポしていいのは……っ♡

私だけで、充分ですからぁ……っ♡

っああっ、っんっ、んんっあっんんいっ♡

いっっ、いっああっ、あっ、っんん……♡

はっあっああぁ……っ♡

旦那様っ♡ 好きっ♡ 好きいっ♡

んっううううっああっ、っあっ♡

ああっ、っんんっ、んんっ♡

っううううん……っ♡」

紅「ばっちゅんばっちゅんどっちゅんどっちゅん♡

雅のデカケツ、何度もそちのチンポに叩きつけられて♡

こんな激しいおまんこ出し入れ、どれだけ我慢しようと、

精液搾られてしまうのう♡

ほれ、もう漏れそうなのじゃろう？！

デカ尻だぶだぶ、乳揺れどぶどぶ♡

全身の柔肉揺らした本気交尾で、精液搾り♡

我慢できん♡ 漏れる漏れる♡

子作り精子、いっぱい出る出る♡

おお、よいぞ、よいぞ♡

ここで妾が見守ってやるからのお♡

妾のおっぱい飲みながら、たっぷり漏らせ♡

乳飲み射精で、気持ちよくなるんじやぞお♡

ほうれ♡ 出せ、出せ、出せ、出せ♡」

雅「あつ、あああつ、あああつんっああつ♡

あんっ、あつ、あっんっ、っいい♡

っいいっ、いいいああ…っ♡

はっああああ…っ♡

イクっ♡ イック♡ おまんこイキますっ♡

本気杭打ち交尾でっ♡ 私もおお…っ♡

おまんこ気持ちいいとこっ♡ おチンポごりごりっ♡

えぐられて…っ♡ うんうあっ♡

イグ♡ イグイグっ♡ んっうう…っ♡

旦那様っ♡ 好きっ♡ 好きっ♡

愛しております……っ♡ っおお……っ♡

イググ♡ イググっ♡ 大好きだからっ♡

愛しているからっ♡ おまんこイググうう……っ♡

うううう……っ♡

んっ、んんっうううっ、うああっ、あああああんっ、んっ♡

はああああ……っ♡ んううああああ……っ♡

はっあああ……っ♡

ううっあああ……っ♡ ふっ、あっ♡

んうんうあっ♡ はっあああ……っ♡

中にまた、たっぷりと♡

熱いの、いっぱい……っ♡

ありがとうございます……っ♡

旦那様あ♡ はあ、はあ、はあ、はあああ♡

っふう、っふう、ふう♡

ああ、旦那様♡

愛しております♡ ふう、ふう♡

紅「どれ♡ それでは妾も、また真似てみようかの♡

確かに真似ではあるが……♡

その快感までは真似せんぞ♡

おまんこの形の違い♡ 腰振りの癖の違いで♡

無論、雅以上という意味でのお♡

ほうれ……♡

はっあああん……♡

っあああ……♡ おチンポ、ずっぶん……♡

一気に奥までえ……♡

あっ、あっ、っあああっ、んっ、ああああん♡

んっあああっんっ、んいっ、いっいっいっ……♡

はっあああ……♡

どうじゃ……♡ 妾のお……♡

杭打ち捕食交尾はあ……♡ くううう……♡

雅「おチンポずぼずぼ♡

姉上の激しい腰振り、いかがですか♡

どうやら姉上も、なかなかの實力をお持ちのようで♡

あなたのおチンポ、キツく締め付けて、

精液搾り♡

しているようですね……♡

ですが、ほうら♡

大丈夫ですよ♡ 私のおっぱい、飲んでください♡

このおっぱいを飲んでいれば、

姉上なんかにおチンポ、負けることはありませんからね……♡

っああ♡

さあ、たっぷりごくごく♡

いいですからね……♡ ふふふ……♡「♡」

紅「いいっあっ、んんんうっ、うっああっ♡

っあああ……っ♡

おチンポ、熱く……っ♡ まだまだこんなにっ♡

おチンポっ、強い……っ♡

なんて男なのじゃ……っ♡

おチンポ入れる度にっ♡ 理解する……っ♡

そちという男に、妾のおまんこ……っ♡

完璧に、惚れ込んでしまっているとお……っ♡

はっあああ……っ♡

おまんこじゅぶじゅぶっ♡ 気持ちよく……っ♡

何度も子作り腰振り交尾……っ♡

おチンポ食い散らかすような下品なケツ振りでえ……っ♡

子種汁っ♡ 搾り取ってやりたいと……っ♡

思ってしまうのじゃあ……っ♡

はっあああ……っ♡

あああああっ、ああんっ、んんっ♡

んんんああんんっ、あああっんんいいいいいいっ♡

くっふうう……っ♡」

雅「キンタマきゅんっと、持ち上がってきておりますね……っ♡

姉上のおチンポ搾りに、おチンポ、耐えきれないのですね……っ♡

いいですよ、お射精してしまっても♡

姉上の中に、また子種汁、

どびゅどびゅ漏らしても構いません♡

それでも、私のおっぱいを飲んでさえいれば♡

私は大丈夫ですから♡

あなたの幸せそうな、乳飲み射精顔を見れば♡

私は幸せです♡

はぁ♡

さあ、どうぞ、旦那様♡

私のおっぱい飲みながら……♡

姉上のおまんこに、たっぷりお射精してください♡

よしよし、よしよし♡

いいですよ♡ はい、はい、どうぞお♡「

紅「っあぁっ、んんっ、っうっ、うぁっ、ぁぁ……っ♡

んっ、んっあぁっ、ぁぁっ、っんっ、っあぁっ♡

っぁぁぁ……っ♡ イッグ♡ イッグ♡

何度出しても硬いままのおチンポでっ♡

おまんこ奥までぐりぐり貫かれてえ♡

チンポ汁搾り取りながらっ♡

妾もイッグ♡ いっしょに絶頂、してしまう……っ♡

ぁっ♡ ぁっ♡ ううぁっ♡

はっぁぁぁ……っ♡

んいつぐ♡ イッグ♡ イグイグ♡

うううあああ……っ♡

はっ♡ はっ♡ ふっ、くううあああ……っ♡

んうううあっ♡ っああああ……っ♡

熱いっ♡ あっついっ♡

びゅびゅぶ、濃いのが、またあ♡

っはあ、っはあ、っふう、はっあああ♡

くっううん♡

はあ、ふう、はあ、はあ♡」

雅「ふふ……♡

気持ちよかったですね……♡ 旦那様♡

ですが、そろそろおチンポも限界でしょう？

そろそろ今日は、お休みに……あ……っ♡

んう♡ 旦那様……っ♡

っああ……っ♡

そんな……っ♡ 寝転がったまま……っ♡

背中から、おチンポ……っ♡

あんんいっいっ、っあああああっんっ♡

はっあああ……っ♡」

紅「おいおい♡

まだ孕ませたりんのか♡ そちのおチンポは♡

ああ、よいぞ、ほれ♡

それなら満足するまでどんどん犯せ♡

孕ませ交尾、思う存分♡

孕ませおチンポ気持ちいいの♡

やめられんの♡

ふふふふ……♡」

雅「んうあっ♡ っああっ♡ んうん……っ♡

んっへあ……っ♡

っはあ、はあ……っ？

だ、旦那様……？」

紅「ぬ？ っおおっ！？」

まさか、妾もか……っ♡

っあああ……っ♡

んううっ、うあぁっ、あっ、あっん……っ♡

うううん……っ♡

姉妹おまんこ、交互に犯すとは……っ♡

なんて男♡ なんてオスじゃ……っ♡

くううぁぁ……っ♡」

雅「旦那様♡

おチンポで、メスを孕ませることしか、
考えられなくなったのですね……♡

ええ、よろしいですよ♡

私も姉上も♡ 子宮、お捧げしますから♡

どうぞ好きなだけ♡

孕ませおチンポ、してください♡

覚悟はとうに、できておりますから♡

どうか姉上も、孕ませてください♡」

紅「んっくうう……っ♡」

雅「っぁぁぁ……っ♡

また、私のおまんこを……っ♡

ううう……っ♡

紅「自分でもおチンポの制御ができのじゃろう♡

ならばよいぞ♡

出したい時に、出したい分だけ射精しろ♡

妾もしっかり受け止めてやる♡

雅も同じ気持ちじゃろう♡

ほれ、チンポイケ♡ チンポイケ♡

いつでもイッてよいからのお♡

おチンポびゅー♡ おチンポびゅーびゅー♡

雅「んうあ……っ♡」

紅「んうお……っ♡

おまんこ、熱いい♡」

雅「どうぞ、旦那様……っ♡

大暴れおチンポ、お射精してください♡

キンタマ汁、空っぽになるまで♡

私でも、姉上でも♡

好きな方のおまんこに♡

両方のおまんこに♡

種付け精子、お注ぎください♡

赤ちゃん孕みます♡

私も姉上も、赤ちゃんしっかり孕みますから♡

どうぞ、どうぞ、どうぞ、どうぞ♡

孕ませて♡ 孕ませて♡ 孕ませて♡

孕ませてえ♡」

紅「んうううう……っ♡

はっ、くっ、うううああ♡

精子、出とるっ……っ♡

ふうう、くううう……っ♡

んいっ!?!」

雅「おっおお……っ!?!

っああ……っ♡ 精液、射精の続き、私の中に……っ♡

うっ♡ くっ、はぁぁ……っ♡

姉妹同時に孕ませ種付け♡

旦那様……っ♡ かつこよすぎます♡

っはぁ、っはぁ、っはぁ、はぁぁぁ♡

んうぁ……っ♡

ふう、ふう、ふう、ふうう♡」

紅「やりおるのう♡

まったく、叶わんわ、これは♡」

雅「勝負の結果はまだ、お預けということですね……っ♡」

紅「続きはまた今度じゃ♡

次こそは、媚殿を妾のものにしてやるからの♡」

雅「受けて立ちます♡

絶対に、あなたには♡

負けませんからね……っ♡

姉上……っ♡

はぁ、はぁ、ふう♡

ふうううう♡」

● 第7章

雅「……え？」

ああ、いえ、すいません、旦那様。

今、少し……考え事をしていたものですから。

いえ、大丈夫ですよ。

では、今日も子作りいたしましょうか♡

なにせ、今日は邪魔な姉上がおりませんから♡

久しぶりに、二人きりでいっぱい、

気持ちよくなりましょうね……♡ ふふふ……♡

さあ、来てください、あなた♡

あなたの方から、私のおまんこ♡

ええ、男らしい腰振りおチンポで、私のこと♡

たっぷり愛してください……っ♡

ん……っ♡

はっぁあん……っ♡ はぁ、ふう……っ♡

っぁっ、ぁぁぁぁ……っ♡

はっぁぁぁ……っ♡

んっ、うんっ、あんっ、はぁ……っ♡

旦那様……っ♡

うぁっ、あんっ、ぁぁぁぁっんっ♡

いかがですか、旦那様♡

私のおまんこ♡

姉上が、あなたの誘惑するために使っていた、媚薬の匂いは♡

元々は、っぁん♡

子供がなかなか出来ない夫婦のためにと、

作られたものなのですが……っ♡

少々強力すぎて、問題があるものなのです♡

基本的に人体に影響はないのですが、

一度使うと、数日間、効果が持続してしまい♡

性欲よりも体力が持たず、

興奮したまま気絶した人が、後を絶たず♡

製造が中止された、曰く付きで♡

っはぁ、っはぁ、っふう♡

ただ……っ♡ っぁぁ♡

元々、性欲がすさまじく♡

私とも、一日ぶっ通しで子作りおまんこをするあなたには、んうん……っ♡

さほど問題はなかったようですが……っ♡

あっ、あっ、はぁん……っ♡

それでも、効果が残っているのは、よろしくないですからね……♡

今日は私とのおまんこで……っ♡

すべて、発散しきってしまいましたよね……っ♡

はぁ、はぁ、はっぁぁ♡

旦那様……っ♡

んんぁぁんんっ、いいいいっ、いいいいっぁぁぁ……っ♡

んうあっ、ぁぁぁっ、んうううあっ♡

ふっ、ふっ、んっふう、はぁ……っ♡

んうん……っ♡ 旦那様♡

ええ、どうぞ♡ いいですよ……っ♡

私のおっぱいに、お顔を沈めて……っ♡

思い切り、ぱんぱんぱんぱん……っ♡

おまんこ、楽しんでくださいね……っ♡

んっ、うんっ、っふう、はぁ……っ♡

旦那様……っ♡

よしよし、よしよし……っ♡

はっぁ、はっぁ、んっうん、っふう……っ♡

はぁ、はぁ、はぁぁぁ……っ♡

んうううん……っ♡ 旦那様……っ♡

ぁぁっ、はっぁぁぁ……っ♡

ぁんっ、んっ、ぁんっ、ぁんっ、んっ、ぁぁんっ♡

はい……っ♡ 出ちやいそう、なのですね……♡

いいですよ、今日も中に、たくさん……っ♡

お香のせいで高まった性欲……っ♡

パンパンに膨らんだキンタマの中身♡

すべて私の中に、注いでくださいね……っ♡

んっ、うんっ、はっ、はっ、はっぁぁぁ……っ♡

どうぞ、どうぞ、あなたあ……っ♡

出して、出して、いっぱい、びゅるびゅるっ……っ♡

んっ、んっ、んっうん、はっあああ……っ♡

んうううん……っ♡

はっ、はっ、はっああ、んっうん♡

ふう、ふう、はあああ♡

中に、いっぱい♡ あなたの、出してもらえて♡

ありがとうございます、旦那様……っ♡

はあ、はあ♡

え……？

気持ちよくなかったか、って……そ、そんなことはありませんよ。

イッてなかったみたいだなんて……。

んうん……っ♡

大丈夫、ですよ♡

私はいつも、あなたのおチンポ、楽しんでます♡

それに、今は私のことより、あなたのおチンポです♡

まだまだギンギンすぎて、お辛いのでしょうか？

さあ、今度は抱き合い対面交尾で、お射精させてあげますから♡

むっちり柔肉で、全身抱きしめ合いながら……♡

旦那様の力強い抱擁、私も受け止めながら……♡

おまんこ子作り、しましうね……♡

んっうん……♡

あんっ、あああんっ、あんっ、あんっ♡

あんっ、あんっ、んっ、あんっ、あんっ、あんっ♡

はああああ……♡

旦那様……♡ 好き♡

大好きです……♡ ううん……♡

姉上なんか、絶対♡

あなたのこと、渡したりはしませんから……♡

私の夫はあなただけ……♡

子供もまだまだ、もっと、何人も産んであげたいのですから……♡

あんっ、んっ、んっ、ああんっ、んっ、ああんっ♡

あんっ、んっ、あああ……♡

ああんっ、あああんっ、あんっ、ああんっ、あつくう……♡

大好き♡ 大好きです、あなた♡

もっと、もっと♡

ぎゅって、抱きしめてあげますからね……♡

あなたのこと、離しません♡

ずっと私の側にいてください♡

大好き♡ 愛しています♡

私の旦那様……♡

っううん……♡

んっ、あんっ、ああああんっ、あああんっ♡

ああんっ、ああああんっ、あんっ♡

あんっ、ああんっ、うあんっ、ああんっ、うんっ、んっ、あんっ♡

あっ、んっ♡ はっあんっ♡ はっああ♡

あっ♡ あっ♡ 奥にっ♡ 強く……♡

ううんうっ♡ はっああ♡

ずんずん、ずんずん♡

いっばい来てます……♡ はああ……♡

はい、はい、どうぞ、旦那様……♡

奥にいっばい、おチンポ押し付けて……♡

また中に、出してください……♡

熱々キンタマ汁、全部出して……♡

痛いぐらいに勃起したおチンポ……っ♡

鎮めてください……っ♡

んっ、んっ、旦那様……っ♡ どうぞ……っ♡

どうぞ、中出し……っ♡

いっぱい、種付け……っ♡

赤ちゃん、産ませてください……っ♡

はぁぁぁ……っ♡ んっ、うんっ、はっぁぁ♡

んっうんぁ……っ♡

うっ、うっ、うっくっ、はっぁぁ……っ♡

っはぁ、っふう、っはぁ、はっぁぁ♡

ぁぁ、んうん、はぁ、ふうう♡

またたくさん、出ましたね……♡

はぁ、はぁ♡

旦那様♡ 今日、たっぷりお射精、かっこいいです♡

まだまだおチンポ、できますよね……♡

キンタマスッカリするまで、何度でも……え？

ん……っ♡

っはぁ、はぁ……。

今日はもうおしまい、って……。

どうしたのですか？

普段のあなたなら、最低でももう二回ほどは……。

……私が、悩んでいるから……？

そ、それは……。

……ふふ……。さすが、私の旦那様ですね……。

すべてお見通しですか。

ええ。……ごめんなさい。

こんな状態なのに、子作りしようだなんて、言ってしまったて……。

私の個人的な事情で、

あなたに迷惑をかけてはいけないと思っていたのですが……。

逆に、気を遣わせてしまったみたいですね。

……はい、旦那様の言うとおり……。

姉上のことで、少々……いえ。

多分に迷っていることがありますて。

昔話になるのですが……。

この国は、ほんの数年前まで、

周辺国との戦を何度も繰り返していたことは、

あなたもご存じでしょう。

我が夫となる前は、あなたもこの国に住まう民だったのですから。

その戦乱に、私や姉上もちろん、参加していました。

私と姉上が組めば、その戦力は最強……。

他国にも、かの国には鬼の二将が有りと、

恐れられていました。

しかし……その異名のほとんどは、実際は、

姉上一人が受け取るべきもの……。

私は知略においても、剣の腕においても二番手……。

姉上の助けがなければ、

戦に勝つことなどはできませんでした。

小さな頃から、ずっと……変わらず……。

姉上は私の憧れであり、誇りでした。

その戦乱の最終盤……この国の未来を決める、

大戦にて、事件が起きました。

敵国の大将との決戦で私は……。

功を焦ってしまったのです。

武将姉妹は強いと、褒めそやされても……。

実際にはそのほとんどは、姉上の戦果……。

姉上を見返してやりたいと……姉上に褒められたいと……。

一人突出し……結果、その大将に敗北……。

今まさに殺されてしまうと、刃を向けられた、その瞬間……。

姉上が私をかばい、代わりに大怪我を負ってしまったのです。

ええ、姉上のあの腹の傷がそうです。

その後私は、その隙を突いて大将の首を跳ね……。

私こそが、敵将を討ち果たしたということになったのですが……。

しかし、真実は、今話した通りのこと……。

私は何もしていなかった……。

すべては、姉上がいなければ、勝てぬ戦であったと……。

だというのに私は、その時に負った傷が元で高熱を出し……。

そのせいでしょう、戦場の記憶をほとんど、失っていたのです。

結果私は、周囲が言う、私が敵将を討ったのだという話を信じ……。

姉上も、傷を癒すため、半年近く病床に伏せていたため、

真実を語れるものは他になく……。

それがこの国の歴史においての、事実になってしまいました。

姉上の傷が癒え、外出できるようになり、

久しぶりに顔を合わせた時にも……。

姉上はすべてを知りつつ、何も言わず……。

自分は剣を握るのはもう飽いた、と……。

国の統治などという面倒ごとはお前に任せ、

諸外国を漫遊すると国を出て……。

そして、今に至ると……そういうわけなのです。

すべて思い出したのは、先日、

姉上の腹の傷を見たあの瞬間です。

……ですが、話はそれだけに留まりません。

つい先ほど、今の話を、姉上を治療した、

我が国お抱えの医師に話したら……。

姉上は……あの時の傷のせいで、

剣を握ることのできない身体になっている、と知らされて……。

剣を自ら捨てたのではなく、捨てざるを得なかったのだと……。

剣を握れない将軍が、この国を治めるのは無理だと……っ。

自分の意志で、この国を去ったのだと……っ。

初めて知りました……。

うすうすおかしいとは思っていたのです……。

いくら姉上が気分屋とはいえ、剣を捨てるなどと……。

記憶がなかったとはいえ、私は、なんて酷いことを……っ。

本来ならば、今の私の座には、姉上がついていべきで……っ。

將軍の地位にうつつを抜かし、

種馬制度などという、馬鹿げた政策を始め……っ、

幸せぶって、子を産むなどと……っ。

……申し訳ありません、旦那様……。

少し、私に……時間をくれませんか。

考えたいのです。

今、私がすべきことは何か……。

姉上が払った犠牲を……。

どうすれば、取り返せるのかを……。

……ごめんなさい、旦那様……。

私には……。

あなたを愛する資格も、愛される資格も……。

なかったのかもしれませんが……。

それでは……。

おやすみなさい……。」

● 第8章

紅「ぬ？　ほう……」。

まさか……そちの方から、妾を訪ねてくるとはのう……。

まあ……理由は大方察しておるがの。

雅のことじゃろう？

昨日は妾が突飛なことを言い出したから、

余計なことを考えず、勢いでそのまま押し切れたじゃろうが……。

一日経って、冷静になってしまえばのう……。

この傷のことやらなにやら、わかってしまったんじゃろう。

雅は昔から、賢いやつじやったからな……。

うむ。雅が言ったこと……。それが我らの真実じゃ。

妾も雅も、將軍家に生まれ……。将来が約束された身……。

どちらが將軍となってもいいよう、同じような勉強、同じような修行を受け、育った。

じゃが……生まれ持った才の差なのじゃろう。

徐々に、我らの実力にも差が生まれてきた。

無論、雅も相当な天賦の才を持っていることに、

変わりはない。

じゃが、妾の才はそれ以上じゃった。

雅よりも常に上を行き……やつを悲しませていた。

まあ、そうと気付いたのは、ずいぶんと年を経てからじゃがな。

幼い頃は、雅に勝つことが何よりも好きじゃった……。

悔しがる雅がまたかわいくて、それを見るのが楽しくてのう。

それに、周りも妾を褒めそやしてくれた。

この国の歴史上、最も強く、優秀な將軍になるだろう、とな……。

みなが妾に期待した。そして、いつしかその期待に、

妾も応えねばならなくなった……。

より強く、より賢く……。

負けることは許されない、と……。

重荷ではあったが……。

その重荷に負けぬ自分に、酔ってもおった……。

自分が優秀であることにおごっていたのじゃな。

だからこそ、雅が……妾に向ける憧れ以上に……。

妾を妬んでおったことに、気付けんかった。

この傷はその罰じゃ。

妹の心を知らず傷つけていた報いじゃよ。

じゃから、傷が癒えた後、二度と剣を握れぬと聞かされても、

不思議と受け入れられた。

何せ、我が最も愛する妹である雅を、

救うことができたのじゃからな。

その命と……そして、妾の妹であるという重圧……。

その二つから、な。

それは紛れもない妾の本心じゃ。

さて……では、お遊びはこれぐらいにするかの。妾はまた国を出る。

そして、今度は二度と帰ってはこんじゃろう。

大事な妹が子供を産み、

幸せになったというところを見ただけで、

妾は満足じゃよ。

まあ、ちと遊びが過ぎて、

余計なことを思い出させてしまったが……。

今の雅なら大丈夫じゃろう。

そちという強い夫がいるからの。

……ふむ、そうじゃの……。

のう、婿殿？

最後にもう一度……妾をまぐわってくれんか？

最後の思い出作りというやつじゃ♡

いいじゃろう？

ほれほれ、近う寄れ近う寄れ♡

抱きしめてやるからのお♡

ぎゅぅ♡ とな♡

しっかり楽しませておくれ♡

我が妹の隣に♡ 一生立ち続ける男として、な♡

ん……っ♡

はっああん♡

ああ、さすがの硬さじゃあ♡

さすが、我が妹の、婿殿じゃあ♡

んっうんっ、はっあああ♡

ああ、気持ちいい♡

男と交わると言うことが、これほどとはの……♡

知識として蓄えていても……♡

わからぬものじゃ……♡

あんっ、んっ、んっ、あうんっ、あんっ、んっ♡

はっあああ……♡

まさしく、百聞は一見に如かず……っ、じゃのう♡

はっあああ……♡

こんな、貴重な体験も出来た……♡

もう心残りはない……♡

妾は、遠い国で……♡

ひっそり暮らすとしよう……♡

そちの子といっしょにな♡

ふふふ……♡

うあんっ、あんっ、うんっ、あんっ、んっ、うあんっ、ああんっ♡

んっう……？

何？ 気付いておらんかったのか？

妾も……雅もまた、孕んでいることに……っ♡

こんなに母乳が出ているじゃろうに♡

気付かぬことなど、あり得るのか？

ああ、そうか……っ♡

大抵、母乳というのは妊娠してから、もっと後……っ♡

出産直前や、出産後に出るものじゃな……っ♡

我が將軍家は代々こういう体質なのじゃよ♡

妊娠し、しばらくすると、すぐ♡

こうして、母乳が……♡

っはあ……っ♡

出るという、な……っ♡

おかげでそちも楽しめたじゃろう♡

妾や雅の母乳を、たんまり飲めて……っ♡

これからは、雅のお乳をいっぱい吸って……っ♡

おチンポ、楽しむことじゃ♡

妾の母乳は、我が子のために、

取っておくことにするからの♡

ふふふ……っ♡

んうん……っ♡

はぁっ、はぁっ、はぁぁっ、んっうん♡

ああ……っ♡

ああ、よいぞ、妾の中で、もっと♡

おチンポ、感じるがよい♡

妾のおまんこに、そちのおチンポの形、

覚え込ませるように……っ♡

そちといういい男の記憶……っ♡

二度と忘れることのないよう……っ♡

刻み込んでくれい……っ♡

はっぁぁぁぁ……っ♡

うむ、出せ……っ♡ 中に、いっぱい……っ♡

出すんじゃ……っ♡ はっぁぁ……っ♡

出せ、出せ、いっぱい、びゅーびゅー……っ♡

そちの子種汁で……っ♡

いっぱい、満たしてくれえ……っ♡

あんっ、あああうぁあんっ、ああうぁあんっ♡

はっぁぁぁぁ……っ♡ うっうっうっ……っ♡

っはぁ♡

ふう、ふう、はぁ、はぁぁぁ♡

ふう、ふう♡

これが最後の、そちとの交わり♡

楽しかったぞ♡ 媚殿♡

ん……っ!？

っはぁ、はぁ♡

まだ……じゃと？

ぁぁ、そうか♡

我が焚いた香がまだ、残っておるのじやな♡

うむ、ならばよいぞ♡

妾のイタズラの責任は、しっかり取らんな♡

最後の一滴までしっかり♡

妾のおまんこに、搾り出すといい♡

っううん……っ♡

はぁ、はぁ、はぁぁぁ……っ♡

正常位、交尾……っ♡

普通の夫婦がするような♡

何の変哲もない、子作り♡

いい気持ちじゃのう♡

愛する男に、愛してもらえる♡

雅が羨ましいわ……っ♡

これからも雅のことをよろしく頼むぞ……っ♡

やつは、んっあん……っ♡

やつは、強い子じゃが……っ♡

あれで中々、寂しがり屋での……っ♡

一人にすると、度々泣き出すんじゃ……っ♡

幼い頃の話、じゃがのう……っ♡

じゃが、そんな心配はもう、一つもない……っ♡

妾がおらずとも、そちがいる♡

やつにとつての、最高の旦那が……っ♡

妾の誘惑にも負けず……っ♡

雅を大事に想っておると、わかったしの……っ♡

イタズラを仕掛けた甲斐が、あったというもの……っ♡

はっああああ……っ♡

うああんっ、ああうあんっ、ああんっ、ううん……っ♡

ああんっ、んっ、うあんっ、あんっ、んっ、うんっ♡

んっうんっ、くうううう……っ♡

婿殿……っ♡ おチンポ、熱く、硬く……っ♡

ううううう……っ♡

ああ、よいぞ、よいぞ……っ♡

そのまま奥に、出してくれ……っ♡

また、そちの濃いのを♡

はっああああ……っ♡

ああ……っ♡ くうううっ、はっあああ……っ♡

出せ、出せ、いっぱい、うううん……っ♡

奥にたっぷり♡ 搾り出せえ……っ♡

あっ♡ あっ♡ うっあっ♡ はあああ……っ♡

ううううっ、くうううん……っ♡

んっあああ……っ♡

はっああああ……っ♡

ふっ、ふっ、ふううっ♡ はああああ♡

はあ、はあ、はあ♡

んっうん♡ ふう♡

ふふ……♡ 最後の交わり♡

楽しかったぞ♡

これでもう、妾に心残りはない♡

遠く離れた地でも、元気に……は……？

嘘をつくな、じゃと？

な、何を言うんじゃ……。

本当にこれでいいのか……？

それは……。しかし、我がいては、やつに……。

雅にも迷惑がかかる……。

妾はやつから夫を、そちを奪おうとしたのじゃ。

そんな女を近くに置いておくことなどできんじやろう。

傷の件も……。

お主と二人なら、必ず乗り越えられるじやろう。じゃから、妾は……。

……何？ 何じゃと？

そちは今……なんと、言った……？」

● 第9章

雅「旦那様……姉上……。」

一体何なのですか？

こんなところに三人で集まるなどと……。

姉上が建てられたこの神社で、

何をする気なのですか？」

紅「媚殿の提案での。」

我らに宣言したいことがあるとか……。

妾も、それ以上に詳しい話は聞いておらん。」

雅「旦那様……？」

何なのでしょうか。

私は一人になりたいと言ったはずですが……。

え？……私たち、二人を……！？」

紅「な、あ……！！？」

ど、同時に妻とする、じゃと……！！？

何を言っておるんじゃ、お前……っ！？

そんなこと、できるはずが……っ。」

雅「い、いえ……。」

法の上では、不可能ではありませんが……。

しかし、それでは旦那様に、

大きな負担を強いることになります。

私だけでなく、姉上をも妻とするということは、それだけ、子作りの

義務が発生してしまい……。」

紅「……それをわかった上でのことじゃというのか？

どうしてそのようなことを……。

そんなことせずとも、妾が国を出れば、

それで済むことじゃろう。」

雅「え……！！？」

い、いえ……っ。国を出るとすれば、私の方ですっ。

この国は本来、姉上が治めるべき国……っ。

私は所詮、偽りの將軍で――ひゃっ!？」

紅「うおっ!？ む、媚殿っ!？」

雅「うう……っ。

な、なんて強い力で……っ。」

紅「だ、抱きしめられて……っ。」

雅「はあ、はあ……。

みんなで仲良く……この国を守る、ですか……？

ですが、それは……。」

紅「……うむ……。そうじゃな……。

妾も雅も……。互いが互いを愛し……。

それ故に、互いに身を引こうとしておる……。

仮にどちらかが国を出たとしても……。

そこに、一生消えぬ傷が残るのは、

同じことか……。」

雅「実際、旦那様の言うとおりでとは思いますが。

愛故に、このように歪な事態になってしまい……。

また愛故に、それを歪に戻そうとしている……。

そんなことでは堂々巡り……。

真の意味の解決とはなりません。

ですが……。

そのために、旦那様が犠牲になるなど……。」

紅「なに？ 犠牲ではない、じゃと？

……三人でするのは、気持ちよかったから？

な、なんじゃその理由は。

我らとの同時の子作りにも耐えられるから問題ないなどと……。

まったく……ふざけたやつじゃのう、そちは♡」

雅「ですが……ふふふ……♡

確かに、そうですね……♡

姉上といっしょに、旦那様と交わるのは♡

とても楽しかったです♡

旦那様も、とてもいい顔をしておりましたね……♡」

紅「じゃから、信じられる、と♡

歪んだ我ら姉妹をひとまとめにするかすがいに、

そちがなると♡

そういうことでいいんじゃない？」

雅「そうですね……♡

そういうことなのであれば♡

姉上♡

どちらかが、ではなく♡」

紅「うむ♡ 我ら姉妹二人で……いや♡

姉妹夫婦三人で、この国を治める♡

それが一番なのかもしれんの♡」

雅「はい♡

姉上♡ あの時……その傷を負わせてしまってた♡

本当に、申し訳ありませんでした♡

そして……ありがとうございました♡

私の命の恩人♡

私の愛する姉上♡」

紅「うむ♡ よいよい♡

お前の命があって、本当によかった♡

愛する妹の死と比べれば♡

剣が握れなくなることなど、安いものじゃからな♡」

雅「姉上♡」

紅「雅♡」

雅「旦那様♡」

紅「旦那様♡」

雅「では、旦那様♡

改めて、契りを交わしましょう♡」

紅「うむ♡ 我ら三人で夫婦となる、

契りの口づけを♡」

雅「……これで我らは、夫婦です♡

これからも改めて♡

よろしくお願いいたしますね……♡」

紅「頼むぞ、妾の旦那様♡

そちの覚悟♡

間近でしっかり、見届けさせてもらうぞ♡」

雅「ふふ……♡

桜の花吹雪♡

この木も我らを、祝福してくれているようで……。

桜の木……？

そうだ……思い出しました……。

どうしてここに、姉上が、

神社を建てられたのか、わからなかったのですが……。

確か、ここは……。」

紅「なんじゃ、今思い出したのか？

そう。ここは、我らが幼い頃、共に遊んだ場所じゃ。

昔、ここに「本、桜の木が植わっていたのう……。

姉妹でよく、その下で遊んだものじゃ。

戦の影響か、その木は枯れてしもうたが……。

以前、国を出ると決めた時、

無事に帰ってこれる保証はなかったからの……。 万が一、何かが起き

た時……。

ここに桜の木があれば、雅も寂しくないかと思い……。

改めて植え付けることにしたのじゃよ♡」

雅「姉上♡」

紅「ふふ……♡ それに、こうして無事に帰ってくれば、

また昔のように、共にこの下で遊べるかとも思ってたの♡

「石二鳥じゃな♡」

雅「ふふふ……♡　そうですね……♡

さあ、旦那様♡

では、この桜の木の下で♡」

紅「早速、新たな夫婦となった我ら、三人で♡」

雅「たっぷりと楽しみましょう♡」

紅「たっぷりと楽しもうぞ♡」

雅「さあ、旦那様♡

まずはあなたのおチンポを♡」

紅「我ら二人の妻のデカ乳で♡

心地よくしてやろう♡」

雅「はぁ♡

むっちり巨乳でおチンポ包んで♡

ずりずり、ずりずり♡」

紅「ほうれ♡

そちのおチンポなど全部包まれて、

隠れて見えなくなってしまうぞ♡

どうじゃ♡ 旦那様♡」

雅「ふふふ……♡

気持ちよさそうなお顔♡

大好きです♡」

紅「妾もその顔♡

ずっと好ましいと思っていた♡

これからは存分に、楽しませてもらうぞ♡」

雅「ん……っ♡

おチンポ膨らんで♡

おっぱいから飛び出て♡」

紅「ふふ、やるのう、旦那様♡

じゃが……♡

出る杭は打たれる♡

出るおチンポは♡

愛情たっぷり妻たちのお口で♡」

雅「にゅっつぶり、しゃぶられちゃいますよ♡

はっ♡」

雅「ふふ……♡」

とろとろ我慢汁、たっぷり溢れて♡

紅「びくびく震えて、かわいらしいの♡」

雅「二人の妻に、愛情たっぷり注がれるの♡

気持ちいいですか♡」

紅「おチンポもキンタマも♡

快感叩き込まれて、強く震えて♡

極上の気分じゃの♡」

雅「ほうら、こちらも♡

旦那様のまあるいキンタマ♡

舐めてさしあげます♡

っはぁ♡」

紅「ずるいぞ、雅♡

妾にも旦那様の丸々キンタマ♡

しゃぶらせ♡

へあ♡ふう、ふう♡」

雅「姉上はご立派おチンポを舐めていてください♡

キンタマは、私が……♡」

紅「ならぬならぬ♡

美味しい我慢汁の溢れるおチンポは、

お主が吸うんじゃ♡ んっう……っ♡」

雅「はあ、はあ♡

ふふふ……♡

おチンポびっくん♡

おっぱいの中で暴れて♡」

紅「もうお漏らししてしまいそうか？

うむ♡ よいぞ♡

では、またおチンポ、二人でいっぱい、

すすり上げてやるか♡」

雅「はい、姉上♡

旦那様♡

どうぞ、我らのお口に♡

愛する二人の妻のおっぱいに、

おチンポぎゅくと、包まれながら……♡」

紅「たっぷり射精♡

するんじゃぞ♡

ほうれ♡

乳圧ぎゅうぎゅう、強く、強く♡

おチンポ押し潰して♡」

雅「どうぞ、旦那様♡

出してください♡」

紅「出せ♡ 出せ♡ いっぱいおチンポ♡

イッてしまえ♡」

雅「おチンポどうぞ♡ 旦那様あ♡」

紅「おチンポどうぞ♡ 旦那様あ♡」

雅「んんっうん♡ んっふっ♡

んっうんっ♡ くうっうん♡」

紅「んうっ♡ んっぷっ♡

んうんっ、んむっうううっ♡」♡

雅「んっふ……♡ んふー♡

んっうん、んっふう♡

紅「んふふ……♡」♡

雅「んうっー?」

紅「んっへぁ♡

んぁ、んうた♡」

雅「んっぢぢ♡ んぢぢ♡

んっぢぢぢ♡ いっぢぢぢ♡」

紅「んっぐ♡ いっぢぢぢ♡

んぢぢ、んぢぢ、んぐ、いっぐ♡」

雅「っはぁ♡

ふう、はぁ、はぁ♡

ぁ、姉上……♡」

紅「っふうう♡

んふふ……♡ どうじゃった、旦那様♡

愛する二人の妻が、お互いに♡

お口に出された旦那様精子、口移しし合うところは♡」

雅「と、とってもよかった、と……？」

それならばよかったですが……♡

唐突にするのはやめてください、姉上♡

び、びっくりしてしまいました♡」

紅「驚かせようとしてやったんじゃない♡

なあに、仲直りの盃の代わりじゃよ♡

んふふ……♡

おかげでおチンポも、またこんなに強く、

勃起しておるし、大成功じゃな♡」

雅「ふふ、旦那様♡

おチンポのイライラ、お辛そうですね……♡

では、そろそろ私たちのおまんこに♡

そのぶつといおチンポ、ぶつけますか……？」

紅「では、雅よ♡

その桜の木を使ったらどうじゃ♡

我らを祝福してくれる木の下で♡

夫婦で交わろうではないか♡」

雅「はい♡

それでは、お言葉に甘えて♡

どうぞ、旦那様♡

はしたなくおまんこを拡げた、淫らな妻に♡

硬いおチンポぶちこんで♡

あなたの強さ、改めて♡

見せてください♡

んっ♡ いつもより、さらに♡

おチンポ、硬い……っ♡

はっああああ……っ♡

んっ、うああんっ、ああうんっ、ああんっ、あうう……っ♡

はっあああん……っ♡

旦那様あ♡」

紅「ふふ……♡

どうじゃ、旦那様♡

犬のように片足をあげて、

みっともなく愛液を垂らす妻に♡

強いおチンポ、どちゅどちゅ交尾♡

奥まですぼずぼ、激しく突き入れて♡

雅も喜んでおるぞお♡

ふふふ……♡

ほうれ、もつとじゃ、もつといっぱい、

おチンポ強く♡

キンタマ優しく揉み込んで、精液どろどろ、

濃おくしてやるからのう♡

奥にいっぱい出すんじゃぞ♡

そちの愛する妻の子宮に、

赤ちゃんとつくに孕んでる子宮に♡

またどぶどぶたくさん、中出しせい♡」

雅「あああうんっ、あんっ、あんっ、うんっ、うんっ♡

んっ、ああんっ、うんっ、ああんっ、んっ、あんっ♡

はっああああ……っ♡

旦那様っ♡ 気持ちいいですっ♡

この快感……っ♡

私はこれをつ♡ 自ら捨てようとしたなんて……っ♡

なんて愚かなことを……っ♡

旦那様っ♡ ありがとうございますっ♡

あなたのおかげで私はっ、またぁ……っ♡

いっぱい幸せにい……っ♡ んうん……っ♡

んっ、うんっ、んっ、っくう……っ♡

はっああああ……っ♡「

紅「ああ、そうじゃ♡

すべて丸く収まったのは、そちのおかげ♡

旦那様のおかげじゃ♡

ありがとうございます♡

そちは本当に、強く、かつこうよく、たくましい男じゃあ♡

ほれ、顔をこっちへ♡

雅とおまんこしながら……♡ この紅と、

甘く接吻なぞ、どうじゃ♡

んっううん♡

ああ♡ 幸せ過ぎて、おっぱいが漏れてしまった♡

ふふ……♡」

雅「んっうんっ、はっあああ……っ♡

旦那様っ♡ あああ……っ♡

おまんこっ、イキます……っ♡

幸せおまんこ、イカされます……っ♡

旦那様にいっぱい愛してもらって……っ♡

大好きなおチンポっ♡

奥まで何度も突き入れられて……っ♡

赤ちゃん孕まされたおまんこっ♡

赤ちゃん妊娠している子宮……っ♡

いっぱいイキますっ♡

強い来ちゃいますっ♡

イッグ♡ イッグ♡ おまんこイッグっ♡

あっ♡ あっ♡ 好き好きっ♡

旦那様っ♡ はっああああ……っ♡

んっ、ああうあんっ、あんっ、んっ、うんっ♡

っああああ……っ♡ イグイグっ♡ イググっ♡

出してっ♡ 出してっ♡ 旦那様あ……っ♡

ううあっ♡ はあああっ♡

んうううっ♡ くううううう……っ♡

雅「んううあっああああ……っ♡

あああっ、んううあっ♡ っくううううう……っ♡

紅「びゅーびゅーびゅー♡

とろとろおまんこいっぱい中出し♡

精子どぶどぶ、キンタマ汁、どぶどぶどぶっ♡

雅「はっ♡ はっ♡ はっ♡ はあ♡

旦那、様あ♡

んうあ♡ はあ、はあ♡

紅「相変わらずすごいのが、旦那様♡

おまんこから濃いのが、ぼたぼた垂れて♡

こんなのを注がれたんじゃ♡

そりゃあ、あっさり孕んでしまうわ♡

ほれ♡ それじゃあ今度は、

妾のおまんこ♡

そちの二人目の妻♡

新妻おまんこじゃぞ♡

いっぱい楽しんでくれ♡

んう……っ♡

はぁあっぁぁぁ……っ♡

ああんっ、うあんっ、あぁうあぁうぁ……っ♡

っぁぁぁ……っ♡

旦那様ぁ♡ ううううん……っ♡」

雅「旦那様♡

おチンポ挿、かっこいいです♡

大きく、ぶっとく、ガチガチのおチンポが……♡

姉上の中を、出たり、入ったり♡

一突きごとに、愛液たっぷり溢れてきて♡

姉上がとっても気持ちよくなっているのが、

よくわかります♡

旦那様も♡

もっといっぱい、気持ちよくなってくださいね……♡

お耳もたっぷり気持ちよく♡

精子でばんぱんのキンタマも♡

揉み揉みぎゅうぎゅう♡

たくさん揉みしだいてあげますからね……♡」

紅「ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ ふうう……っ♡

すごい、すごいぞ……っ♡ 旦那様♡

今までのっ♡ 浮気交尾とは違う……っ♡

正式に妻となった上でのっ♡ 本気子作り交尾……っ♡

背徳交尾なんぞっ♡ 足下にも及ばぬっ♡

本気っ♡ おチンポっ♡ 愛情たっぷりっ♡

おまんこの奥までっ♡ 子宮に押し込まれるのっ♡

最高すぎるぞお……っ♡

んっひいいい……っ♡

んんあ……っ♡ はっああん……♡

旦那様っ♡ 旦那様っ♡

愛しておるっ♡ 大好きじゃあ……っ♡

もっとおまんこっ♡ おまんこっ♡

愛妻おまんこっ♡ 強くうっ……っ♡「♡」

雅「旦那様♡

キンタマ熱いです♡

もう孕んでる姉上のこと♡

また孕ませようって、キンタマ、

どくどく脈打って♡

ああ、旦那様♡ 子作り欲求、強すぎてえ♡

はっあああ♡

私も妊娠しているのに、また孕まされたくて♡

身体が熱く、興奮してしまいます……っ♡

旦那様、お口をこちらに♡

あなたの舌、吸わせてください……っ♡

はっ♡ はっあああ……っ♡

旦那様っ♡ 愛してます……っ♡

大好きっ♡ 大好きですっ♡

大好きな姉上といっしょに子作りしていただいて……っ♡

幸せです♡」

紅「あんっ♡ んっあんっ♡ んううっああ……♡ うっ♡ くっ♡

んっいいいい……っ♡ 来るっ♡ 来るっ♡

旦那様おチンポっ♡ 夫婦の子作り交尾でっ♡

大きいのが来るっ♡

絶頂♡ いっぱいい……っ♡

ううううああ……っ♡ イッグ♡ イッグっ♡

イグからあっ、くれえ……っ♡

精子っ♡ くれっ♡ 出してくれっ♡

お願いじゃあ……っ♡

旦那様っ♡ 旦那様っ♡ あっ♡ あっ♡

イクイクイクイクっ♡ 来る来る来るるうう……っ♡

うっ♡ あっ♡ あっ♡ あっああ♡」

雅「ぶっびゅっ♡どぶぶぶぶっ♡ぶゅ♡

孕ませ精子、キンタマどっくん♡

おチンポどくどく♡」

紅「くうああっあああ……っ♡

はああああっ♡んっいいいいっ♡

んっふ……♡んっふうっ♡くううんっ♡

ふあああ……っ♡」

紅「ふっう、ふっう、ふっう、はああ♡

んっうん♡はあ、はあ、はあ♡

あはあ♡

すごい♡ すごい♡

これが、結婚♡

女の幸せ♡ 最高じゃ♡」

雅「でしよう、姉上♡

これからいっぱい、味わえますよ♡

何せ、旦那様が言ってくれましたから♡

二人の妻を♡ 同時に愛してみせる、とね……♡」

紅「ああ♡

期待しておるよ♡

妾の……妾たちの、旦那様♡

ふふふふ……♡」

● 第10章

雅「っああ……っ♡

旦那様……っ♡

ふうああっ♡ んっひいいいん……♡

んっうん……っ♡

はっ、んっ、ああっ、くううん……っ♡

っああ……っ♡

おチンポ、最高です……っ♡

おチンポ子宮にっ♡ 叩きつけっ♡ 交尾……っ♡

強いおチンポ、これでもかと、味わわされてえ……っ♡」

紅「ほうれ、旦那様♡

お顔はこっちじゃぞお♡

夫婦で子作り交尾しながらあ♡

こちらは夫婦でたっぷり舌を絡めて♡

ついでに乳首も、甘あくすりすり♡

いっぱい気持ちよくしてやるぞお♡

ほれ、ほれ♡

乳首いじいじ、気持ちいいのう♡

っはあ♡

ああ、妾も口づけ、気持ちよくて♡

おっぱい、溢れてしまっわ♡

んふふ……♡」

雅「んっううあん……っ♡

あっ♡ あっ♡ おまんこっ♡

熱いですっ♡ 旦那様に強くっ♡

強くうう……っ♡ っあああ……っ♡

どちゅどちゅどちゅどちゅ……っ♡

奥にっ、いっぱい……っ♡

おチンポがああ……っ♡

んううああっあああっああ……っ♡

はっっああっああああ……っ♡

んうあ……っ♡ はあ、はあ……っ♡「

紅「んう♡ なんじゃ、ああんっ♡

射精を経ずに、交互におまんこか……っ♡

んっううん……っ♡

んうああっ♡ うっあっあああ♡ んううああっ♡

はっ♡ くっ♡ ぜいたくなっ♡ 交尾じゃのう……っ♡

そちだけに許されたっ、特権か……っ♡

んっいい……っ♡

んううああ……っ♡「

雅「旦那様あ♡

二人の妻のおまんこ、ハメ比べ♡

気持ちいいですか♡

私も姉上も♡ 二人とも♡

あなたのことを心より愛しておりますから♡

どうぞ、たっぷり♡

私たちのおまんこ、味わい尽くしてくださいねえ♡

ふっう、っふう、はっああ♡

んふふ……♡

乳首いじりも、気持ちよさそうです♡

いっぱい感じてくれて、ありがとうございます♡

旦那様あ♡」

紅「んっひい♡ ふっううううう♡ くうあ♡ くううう……♡♡

んいいいい……♡ んっひい♡♡

んううんっ、はっああ♡

ううあ……♡ 奥、いっぱい、深いところお……♡♡

おチンポで強く押されて……♡ うううう……♡♡

ああ……♡ 好き♡ 好きじゃあ……♡♡

旦那様あ……♡♡

孕み子宮♡ ぐりぐりしてもらうの……♡♡

気持ちよくって……♡ いいいい……♡♡

んうあ♡♡ くううあ♡♡

ふっ♡♡ ふっ♡♡ ふっ♡♡ くうううう……♡♡

んっあ……♡♡

はっ、はっ、はぁぁ……っ♡」

雅「んう♡ 旦那様、また……っ♡

っぁぁん……っ♡

うぁぁぁ……っ♡ んっいぁぁっ♡ あっぁぁっ、ううううう……っ♡

っぁぁぁ……っ♡

強いおチンポで……っ♡

いっばいおまんこ、ずぼずぼ、犯してもらって……っ♡

最高です……っ♡ 幸せいっばい……っ♡

旦那様の愛……っ♡ 私たちへの想い……っ♡

いっばい、溢れてえ……っ♡

うううん……っ♡「♡」

紅「ぁぁ、旦那様ぁ……っ♡

っはぁ、はぁ、っふうう♡

精子、昇ってきたか？

ぁぁ、よいぞ♡ ならば出せ♡

雅の中に、いっばい出してやれ♡

ほら、ほら♡ たんまり出せ出せ♡

子作り交尾で、おまんこ中出し♡

旦那様精子、いっぱい奥に♡

どびゅどびゅびゅうびゅう、注いでやってくれえ♡」

雅「うiiiiiiiiii……っ♡ iiiっ♡ んっiii……っ♡

っあああ……っ♡ 旦那様っ♡

旦那様っ♡ イック♡ イックっ♡

んうんっ♡ はっあああ……っ♡

うううあああ……っ♡

うううんうあっ♡ やっあああ♡

熱い、です……っ♡ 旦那様のっ♡

射精い……っ♡

すごい勢いで、奥っ♡ 奥ううう……っ♡

はっ、はっ、はっああ♡

んっうん……っ♡」

紅「あんっ♡

くうああ……っ♡

休む暇もなく、かあ♡

すごい精力じゃのう、旦那様あ……っ♡

はっあああ……っ♡ 売つくうああっ♡ はっあああ……♡

んうういいいっ♡ んひいんっ♡ はっああ……♡

ふっ、はっ、はっあああ……っ♡

中出ししたばかりなのに、こんなっ♡

熱いおチンポお……っ♡

っああ……っ♡ ますます好きにっ♡

なってしまう……っ♡ ううん……っ♡」

雅「旦那様♡ おまんこ中出し、

ありがとうございます……っ♡

お腹の奥がぽかぽかあったかくて、幸せです……っ♡

この感覚♡ 感じているだけで……っ♡

はあああ♡ おっぱい、溢れてえ♡

旦那様、好き、だあい好き♡

紅「ううううああっ♡ ううううああ……っ♡

んううあっ♡ くうっう♡

んっはぁ……っ♡

ぁぁ、そんな♡ もっとおチンポ、

味わいたいというに……っ♡」

雅「んっうん……っ♡

っぁぁぁ……っ♡

ぁはぁ……っ♡ 中出ししてもらったのに……っ♡

まだおまんこ、使っていただけ、なんてえ……っ♡

んっうぁぁぁっ♡ あっぁぁぁ……♡

旦那様ぁ……っ♡ ありがとう、ございます……っ♡

くっうん……っ♡

ふっ、はっ、はぁぁ……っ♡」

紅「っふう、っふう♡

旦那様……っ♡

わかっておるぞ♡ そちはとっても、

優しい男じゃからな♡

そちの考えていることなどお見通しじゃ♡

だから……っ♡

こうしてしっかり、お手伝い、してやるからの♡

唇も、乳首も♡ たっぷり甘やかして♡

その時のために♡

はっああ♡ ああ、期待だけでおっぱい、

漏れてしまう……っ♡

旦那様あ……っ♡

雅「んっいいっ♡ うっくうっ♡ んううあああ……っ♡

んううあっあああっ♡ んいいっあっ♡ あああ……っ♡

うっ♡ あっ♡ 旦那様っ♡

おチンポっ♡ 震えてえ……っ♡

んううん……っ♡

紅「来た来たあ……っ♡

うっうううん……っ♡

んうううああっ♡ うっくううあっ♡ はっあああん……♡

ああ……っ♡ イキそうなおチンポっ♡

中っ、いっぱいい……っ♡

やはりっ♡ そうじゃ……っ♡

旦那様はちゃんとお♡ 妾にも♡

しっかり中出し……♡ ううん……♡

強くおチンポ子宮に押し付けて……♡

どっぴりびゅうびゅう、してくれるんじゃないろう……♡

ああ♡ だから♡ 好きなんじゃない……♡

妾も雅も♡ 両方一気に♡

愛してくれてえ……♡

はっああん……♡ 旦那様♡

雅「さあ、どうぞ、旦那様♡

姉上の中出し♡ 子作り精子、奥にたっぷり、

どぶどぶびゅるる♡

熱くて濃厚な孕ませオス汁♡

いっぱいおチンポから出してください……♡

重たいキンタマ軽くするために♡

遠慮なくどばどば♡

お射精してください♡

どうぞ、どうぞ、お射精どうぞ♡」

紅「あっああんっ♡ ううああっ♡ ふんいいい……♡

うううあっ♡ イクイクっ♡ イックっ♡

んうんあんっ♡ イッグう……っ♡

旦那様っ♡ 旦那様っ♡

奥にっ♡ くれっ♡ いっぱいっ♡

熱いのお……っ♡ っああっ♡

好きっ♡ 好きじゃっ♡

大好き大好きっ♡

愛しておるからあ……っ♡

精子いっぱいっ♡ 精液どぶどぶ……っ♡

うっ♡ うっ♡ んうんっ♡ うあああ……っ♡

うううあっ♡ 熱いっ♡ いっぱいっ♡

どろっどろのっ♡ 葛湯のようにっ♡

とろとろのチンポ汁……っ♡

うううん……っ♡

あっ♡ あっ♡ 熱い、のじゃ……っ♡

幸せいっぱいっ♡ あったかあい……っ♡

っふっ、っふっ、ふうふう……っ♡

ふう、ふう、はぁ♡

旦那様ぁ♡」

雅「……え？ まだ、続けるのですか？

そんな♡ 旦那様、無理をしなくてもよろしいですよ？

我らはこれだけでも充分——ひゃっ！？

あ、旦那様、どこへ……っ。」

紅「い、こは……。」

こんな、城下を見下ろすようなところで……！？」

雅「ああ……っ♡

この格好は……っ♡

こんな、おまんこ、城下に見せつけるような、

恥ずかしい格好で……っ♡

んっううん……っ♡

子作り、するなんてえ……っ♡

んっいいっ♡ いいっ♡ んっひいっ♡ はっぁぁぁ……♡

っぁぁぁ……っ♡

旦那様っ♡ 旦那様ぁっ♡

うつ♡ あっ♡ はあああ……っ♡

ううん……っ♡

ああ、私の母乳、城下にまで……っ♡

っああ……っ♡
「♡

紅「ふふ……♡

豪気な男じゃの♡

初めて見た時は、雅の夫とは信じられぬほど、

ひ弱に感じたものじゃが……♡

じゃが、実際はこんなにもたくましく♡

かつこうよく、強い男♡

妾も本気で惚れ込んでしまうほどの男じゃった♡

ほうれ♡ 背中におっぱい、こすりつけて♡

溢れる母乳、こすりつけてえ♡

はあああ♡

妾の夫はそちしかおらん♡

外の国に出ているは、けして幸せになどなれなかった♡

ありがとうの♡

妾を妻にすると行ってくれて♡

本当に♡ ありがとう♡」

雅「うっああっ♡ ふうううっ♡

んうううっううう……っ♡ うっああっ♡ んっひっ♡

はっあああ……っ♡

旦那様……っ♡

はい……っ♡ 見えます……っ♡

しっかり見えます……っ♡

我らが守るべき、民たちが……っ♡

我らが守る、この国にすべてがあ……っ♡

あなたのおかげでっ♡ 私はまだっ♡

彼らを守ることが出来ます……っ♡

これからもずっと♡

あなたやっ、姉上と共にい……っ♡

んっうん……っ♡

はっあああ……っ♡

こんな、はしたない將軍で……っ♡

申し訳ない、ですけど……っ♡

ふふふ……っ♡

紅「うむ♡ みんなで守っていこう♡

三人で、この国を平和に♡

二度と、我ら姉妹のような、悲しい事態を、
引き起こすことのないように♡

戦のない世界を目指して♡

三人でいっしょに、国を治めよう♡

そして我らは♡

この国の未来を♡

我らの子供を、何人も、何人も♡

産み育てていかんとなあ♡

ううん……っ♡

この母乳を、真に口にするべき子たちを♡

もっと、いっぱい♡

作ろうなあ……っ♡

雅「はいっ♡ はいっ♡

ですからっ♡ どうぞっ♡ うん……っ♡

またいっぱい♡ おまんこに……っ♡

子種汁っ♡ 注いでください……っ♡

城下の人々にっ♡

皆の未来は明るいっ♡ 見せつけるようにい……っ♡

子作り射精……っ♡ お願いしますっ♡

お願いします……っ♡

ああっあああ……♡ ああっあああっ♡ んうあああ……♡

くうんっ♡ はっあああ……っ♡

っああっ♡ イック♡ イックっ♡

またイクっ♡ おまんこっ♡

旦那様のっ♡ 幸せおチンポでえ……っ♡

んっううんあ……っ♡

イックうううう……っ♡「

雅「はっあああっあああ……っ♡

んううああっ♡ あっ♡ やっ♡ んっうん……っ♡

ううああっ♡

ああっ♡ ああっ♡ 旦那様……っ♡

子作り射精、ありがとうございます♡

私、今、本当に……っ♡

幸せです♡ あなたの妻でいられて……っ♡

本当に、よかった♡ はあ、はあ、はああ♡

んうん♡ ふう、はあ♡」

紅「うあ……っ♡

わ、わかつてはいたが……っ♡

妾もこの格好でか……っ♡

恥ずかしいが……っ♡ 旦那様が望むのなら……っ♡

んっううん……っ♡

っあああ……っ♡

んんっ……んあ、あん、んっ、あ、ああ、ううっ♡

うん、あん、あんっ、あ、あっ、うん、んっ、んっく、んっふ……♡

城下の皆に……っ♡ 見せつけ、交尾い……っ♡

誰かに気付かれる距離ではないとはいえ……っ♡

やはり、これはあ……っ♡

くうっうん……っ♡」

雅「旦那様♡

きつとあなたは、いつまでも♡

私たちを愛してくださるのですよね……♡

何があっても♡ 何が起きても♡

私たち、愛する妻を♡

ああ♡ うれしくていっぱい、母乳が溢れて♡

お背中におっぱい、こすりつけているだけで♡

熱いの、漏れてしまいます♡

好きです♡ 愛してます♡

我らの旦那様♡

だから私たちも永遠に♡

あなたを愛し続けます……っ♡

だあい好き♡ 旦那様あ♡」

紅「あはあっ……ああんっ、あんっ、いや、やん♡

っうううあああ……っ♡

あああ……っ♡ おっぱい、嘔き出で、止まらない……っ♡

城下にたっぷり、降り注いでしまう♡

じゃが、これは……っ♡

妾の幸せの形じゃ……っ♡

そちという夫を……っ♡

最愛の旦那様を手に入れた妾の……っ♡

幸せがっ♡ 溢れて……っ♡

笑顔が止まない妾のっ♡ 気持ちっ♡

そのものの、象徴お……っ♡

ううああ……っ♡

んあう、あう、あん、あんっ、んあっ、んあうっ……♡

旦那様あっ♡ 好きっ♡ 好きじゃっ♡

いつまでも妾とっ♡

妾たちと共にっ♡ この国を……っ♡

平和な国を……っ♡ 三人でっ♡ 共にい……っ♡

んっううん……っ♡」

雅「三人で平和な国を作り上げましょう♡

以前産まれたあの子が……♡

そして、これから産まれてくるこの子たち♡

これからあなたに孕ませてもらう、

さらなる子たちが、みんな……♡

幸せで暮らせる国を♡

私たちなら出来ます……♡

三人でいっしょなら……♡

もはや私たちに敵はありません♡

そう♡ 最強の將軍と♡

その最愛の夫が、いるのですから♡

ね、あなた♡

紅「はっああっああ……♡

だから♡ 未来を……♡

この国の将来を担う♡ 子供たちをお……♡

孕ませて♡ くれ……♡

これから何人も♡ 何十人でも……♡

旦那様のために♡

この国のためにっ♡ 産んでやるからのう……っ♡

中出し、いっぱい、受け止めて……っ♡

大好きな旦那様の子をお……っ♡

んっううん……っ♡

あっ♡ あっ♡ イクっ♡ 幸せおまんこっ♡

イクぞっ♡ イックううう……っ♡

んうんあっ♡ はっあああ……っ♡

イクイクイクイクっ♡ んうんうあっ♡

くうううあああ……っ♡

うっ♡ あっ♡ はああっ♡ んいい……っ♡

旦那様あ……っ♡ 出して、くれ……っ♡

うっ♡ あっ♡ ああっ♡ んいいい……っ♡「♡

紅「んうあっああああ……っ♡

あああっ♡ 旦那っ♡ 様あ……っ♡

はっ♡ ふっ♡ はっ、はっあああ♡

孕ませ精子、あったかい、のじゃ♡

そちの想いが詰まった精液♡

感じるぞ♡ はぁ、はぁ♡

ふふふ……♡

んっうん♡ はぁ、はぁ♡」

雅「さぁ、旦那様♡

お次はどうします……？

まだ子作り、続けますか……？」

紅「ああ♡

妾たちも、まだまだ行けるぞ♡

旦那様になら、いくらだって♡

愛してもらいたいからのう♡」

雅「またこの雅と、おまんこいたしますか♡」

紅「それとも、この紅と♡

おまんこするか……？」

雅「次はどちらと子作りしたいですか♡

お選びください♡ 旦那様♡」

紅「次はどちらと子作りしたいのじゃ？

選んでくれ♡ 旦那様♡」

● 第11章

紅「ほうれ、旦那様あ……っ♡

んっ、あっ、あんっ♡ はあ……っ♡

今日もたっぷり……っ♡

おチンポ、気持ちよくしてやるからのお……っ♡

んっうんっ、はっああ……っ♡

ふふふ……っ♡

ほれ、ほうれ……っ♡

ポテ腹まんこでおチンポ搾り……っ♡

気持ちよいかあ？

妾はあ……っ♡

んっへあ……っ♡

見ての通り、じゃ……っ♡

旦那様チンポ、今日も、勇ましいぞお……っ♡」

雅「ふふ……♡ さすが姉上♡

赤子を身籠もったその身体で、

旦那様のためにおまんこ騎乗位♡

私も同じ身重の身♡

負けていませんね……♡

さあ、旦那様♡

おっぱいどうぞ♡

お腹がこんなに大きくなって♡

またたっぷりと、出るようになりましたから♡

んうん……っ♡

はあ、はあ、んうん、はああ♡

ああ♡ 旦那様♡

今日もぐくぐくお上手で、かっこいいです♡

いっく、いっくお♡」

紅「ふっ、ふっ、ふふふ……っ♡

妾とそちの、一人目の子も……っ♡

雅との二人目の子も、順調に育って♡

いい調子じゃのう……っ♡

その上、この旦那様は……っ♡

さらなる子作りも望んでいて……っ♡

今日も、孕ませ予行練習を欠かさない……っ♡

妻として、こんなにうれしいことはないのう……っ♡

っああ……っ♡

おかげでおまんこ、とっても心地よく……っ♡

くっううん♡

赤子のための母乳が、どっぷり、噴き出してしまう♡

はぁ、はぁ♡

ほれ、こぼすばかりではもったいない……っ♡

こちらも飲んで……っ♡

そちの活力としてくれ♡

っうううん……っ♡

はっ、ふっ、くううん……っ♡「♡」

雅「二人の妻の愛情、同時に受け止めて♡

なお、まったく負けないおチンポ♡

旦那様、かっこよすぎます♡

そんなことでは、ますます惚れ込んでしまいますよ♡

これ以上あなたのことを好きになったら、

どうなってしまうのでしょうか♡

もう、私たちには♡

あなたとたくさん交わって、

子供をたくさん産んであげる以上のことは、

できないというのに♡

はっあああ♡

おっぱい、たっぷり飲んでもらうだけでは♡

こちらが申し訳ありません、からあ♡

ふう、ふう、ふううう♡」

紅「ふふ……♡

ならば、こちらが思い付く限りの愛情表現を、

なんでもしていくしかないのう……っ♡

ほうれ、旦那様あ♡

母乳まみれのお口♡

きれいにしてやろう♡

っふう、っふう、はぁ♡

ああ、旦那様ぁ♡

好きじゃ♡ 愛しておる♡

私の旦那様♡

私たち姉妹の、旦那様ぁ♡

んっうん♡ おチンポ、おっきく……っ♡

ああ、すさまじい熱さでえ♡」

雅「出てしまいそうなのですね……♡

ええ、どうぞ、出してください♡

私たち姉妹の母乳、たっぷり飲んで♡

おチンポたっぷり硬くして♡

ボテ腹愛妻おまんこに、たくさんお射精、してください♡

ほうら、おっぱいちゅっちゅ♡ おっぱいちゅっちゅ♡

んっうん♡

どうぞ、どうぞお♡

出してください、旦那様♡

おチンポどうぞ、おチンポどうぞお♡

紅「んあっ、あん、んくっ、んうっ……♡

んあ、ああん、あっ、あんっ、んう、んあ、んあっ♡

はっああああ……っ♡

イック♡ イック♡ ボテ腹交尾っ♡

身重交尾でおまんこイック……っ♡

お腹で赤ちゃん育っているのに……っ♡

おまんこ絶頂お……っ♡

あっ、んっ、あっ、あっ、んうあっ♡

はっああああ……っ♡

んううんっ♡ はっああああ……っ♡

っああ♡ はあ、はあ♡

旦那様あ♡

っふう、っふう、っふう、っふう♡

はあああ♡ はあ、はあ、はあ♡

今日も大量お射精♡

さすがの強さじゃのう♡ 旦那様♡

雅「でしたら、その強さ♡

あなたのもう一人の妻のおまんこにも♡

しっかり感じさせてくださいね……♡

くっううん……♡

っああ、強い……♡ すでに、こんなに……♡

出したばかりなのに、まったく、

柔らかくなっていないなんてえ……♡

あっ、あっ、あっ……♡

んっ、あん、んあ、あっく、んっく、いや♡

くっううん……♡

旦那様あ……♡

はっあああん……♡

紅「よしよし、よしよし♡

もはや強いなんてものじゃあないのう♡

国一番の将である我ら姉妹なんて♡

そちのおチンポにかかれば、雑兵同然♡

この国の実質的な支配者は、そちなのかもしれんなあ♡

ほうれ、支配者様あ♡

おっぱい飲んで、大事な妻をたっくさん♡

喜ばせてくれえ♡

っああ♡ ちゅううって、いっぱい♡

ほっおう……っ♡

ああ、漏れてしまう……っ♡

幸せ母乳、たくさん漏れて……っ♡

気持ちいいのお♡

よしよし、よしよし♡」

雅「旦那様……っ♡

まだまだこちらに、母乳はたんまり、ありますよ♡

この母乳は枯れることはありません♡

また、このお腹の子が産まれて……っ♡

父親によく似て、母乳が大好きで♡

すべて吸われ尽くしてしまうまで♡

どれだけでも溢れてきてしまいますから……っ♡

それまでは、毎日……っ♡ いくらでもお……っ♡

はっああん……っ♡

たくさん、ごくごくちゅうちゅう♡

ボテ腹妻との愛情たっぷり交尾の最中でも♡

それ以外でもお♡

はっああん♡

いっぱい飲んで、くださいねえ♡

んっうんっ、はっあああ♡「♡」

紅「ふふ……♡

うれしそうに喉を鳴らして、おっぱいぐくぐく♡

よしよし、かわいいやつじゃのう♡

かっこよくってかわいくて♡

おチンポは強く♡

まったく叶う気配がせんわ♡

このままずっと、妾たちはそちに孕まされて、

子供を産んで♡

また次の子を孕まされて、と♡

永遠に幸せにしてもらうんじやのう♡

まったく、なんでオスじゃ♡

最高すぎて♡ 申し訳なくなってしまう♡

ほれ、もっと飲め、飲め♡

こういう形でしか、この感謝♡

返せぬのじゃからなあ♡

んっうん、っはあ♡」

雅「ええ、そうですよ、旦那様♡

私たち姉妹の恩人であるあなたには♡

いくら感謝してもし切れないのですから♡

なので、っあん♡

あなたのしたいこと、やりたいこと♡

私たちにしてほしいこと、何でも言うてくださいね……♡

あなたのために、そのすべて♡

叶えてあげますからあ♡

はっああ♡ おっぱいでも♡

甘々な接吻も♡

おまんこきゅうきゅう、締め付けばこぼし入れもお……♡

んっ、ああ、ああんっ、あんっ、いや、やん♡

んあう、あう、あん、あんっ、んあっ、んあうっ……♡

はっああああ♡」

紅「ほうれ♡ また中出ししたいのじゃろう♡

よいぞ、出せ出せ♡

そちの大事な妻のおまんこに♡

赤子がいるのに、精液飲み干したくってたまらない、

淫らな子宮に♡

いっぱい精液、出してやれ♡

妾の大事な妹に、メスとしての幸せを♡

最高のオスのそちが、与えてやってくれ♡

もちろん、妾にも♡

くううん♡

同じ幸せ♡

母乳たくさん、吸ってのう♡

はっああああ♡」

雅「んううあっ♡ はっあんんっ♡

んっ、あっ♡ 旦那様っ♡

イキます……っ♡

ボテ腹交尾でっ♡ おまんこイキますっ♡

おまんこ幸せでっ♡ 身体中、幸せでえ♡

心も体もっ♡ あなたにたくさん、愛してもらって♡

おまんこ、イキますう……っ♡

うううん……っ♡

あっ♡ あっ♡ 旦那様っ♡ 旦那様あ……っ♡

出して、出して、出して、出してえ……っ♡

あっ♡ やっ♡ はあああっ♡

んううあああ……っ♡

んううあっ♡ はっああああ♡

んううあああん……っ♡

はっあ、はっあああ♡

ああ、旦那様♡

好きです、大好き♡

愛しております♡

あなたのこと、永遠に♡

っふう、っふう♡
「♡」

紅「ほうれ♡ 旦那様あ♡

また妾とも、濃厚な接吻♡

っはあ♡
「♡」

雅「二人の妻に愛されて♡

幸せですか♡ 旦那様♡

ふふふ……♡ はい、ありがとうございます♡

私たちも、とっても幸せです♡
「♡」

紅「ほうれ♡ それなら、この幸せの象徴♡

妾たちの母乳、もっと♡

んっうん♡

たっぷり飲んでくれ♡
「♡」

雅「同時にたっぷり、ちゅうちゅう、ぐへぐへ♡

んっんっ♡

はあああ……っ♡

あなたの望むまま♡

たくさん、たくさん♡
「♡」

紅「ほれ、雅♡
「♡」

雅「はい？ んぁ……っ♡

姉上、何を……っ♡

私のおっぱい、吸って……っ♡

紅「んふ……♡

っはぁ♡

どうじゃ、旦那様♡

雅のおっぱい、妾に口移ししてもらうのは♡

美味しいか？ そうかそうか♡

ふふふ……♡」

雅「もう♡ いきなりそんなこと♡

でしたら、私も♡」

紅「んひっ♡

これ、雅……っ♡

っぁぁ、そんな吸われたらぁ♡」

雅「っふ……♡ んうん、ふっ♡

っへぁ♡

どうです？ 姉上の母乳を、

私に飲ませてもらうのは♡

んふふふ……♡」

紅「っはあ、っはあ♡

やるのう、雅♡」

雅「姉上こそ♡

では♡ お次は♡」

紅「うむ……っ♡」

雅「んっ、うんっ♡ んっうん……っ♡」

紅「んくっ♡ んっう♡ んっふう……っ♡」

雅「っふう、っふう、っふう♡」

紅「んっう、っふう、んふう♡」

雅「んえあ♡ んふふ……♡」

紅「んうあ♡ んふふ……♡」

雅「っはあ♡ あは♡

いかがでしたか、旦那様♡

我ら姉妹で交換し合った、唾液混じりの母乳のお味♡

紅「愛情たっぷり籠もった味が、口中に拡がって♡
たまらんじゃろう♡」

雅「あ♡ ふふふ……♡

とってもうれしかったようですね……♡

おチンポがまた、こんなに大きく♡」

紅「いいのういいのう♡

では、まだまだボテ腹交尾、続けるかの♡

愛する旦那様に愛してもらうのは♡

とっても気持ちいいからのう♡」

雅「ええ、姉上♡

姉妹一緒に、まだまだ旦那様に、愛してもらいましょう♡

よろしいですよね、あなた♡

はい♡ ありがとうございます♡」

紅「その優しさが、何より染みるわ♡

本当にありがとうございます♡」

雅「愛しております♡ 我らの旦那様♡

「♡……♡♡♡♡♡」

紅「愛しておるぞ♡ 我らの旦那様♡

「♡……♡♡♡♡♡」

● 第12章

雅「どうぞ、旦那様あ♡

あなたの妻のおまんこに♡

第二子がすくすく育っているポテ腹妻のおまんこに♡

おチンポずっぷり、入れてください♡

はっああああ……っ♡

ああ、旦那様あ……っ♡

うっく、うぐ、うあ、うあん、あん、はあっ、あはっ、あはあっ……♡

あっ、ああっ、あっ、はあっ、あんっ、あん、あんっ、やんっ、ふあっ

♡

あっ、あっい、んあ、ああん、あっ、あんっ♡

おチンポ、熱いです……っ♡

この桜の木の下で……っ♡

背徳たっぷり、ボテ腹交尾……っ♡

旦那様のおチンポ、いつもよりも熱く、硬く……っ♡

はっああああ……っ♡

んう、んあ、んあっ、あっ、あっ、あっ……っ♡

ん、っく、ん、んふう、んあ、あう……っ♡

んっううん……っ♡

私もたくさん興奮して……っ♡

おっぱいがたくさん、溢れてしまいます……っ♡

んっううん……っ♡

ひあ、あ、んあっ、ああっ、ううあっ……っ♡

んあ、んう、あん、うん、あん、あんっ♡

ふっ、ふっ、ふううっ、っあああ……っ♡

あなたっ、あなたあっ♡

旦那っ、様あ……っ♡

おっ、んっ、んっううんっ、はあああ……っ♡

お腹っ、重たいのに……っ♡

激しく突かれて……っ♡ おまんこいっぱい、感じてしまっ……っ♡

民たちには見せられない、一国の主にあるまじき、乱れた姿……っ♡

でもっ、気持ちいいです……っ♡

孕みおまんこたっぷり突いてもらうの♡

最高です、旦那様あ……っ♡

ん、んあ、はあ、あふ、ふあっ……っ♡

んっ、あっ、あう、んっ、んうっ、ひあ♡

んううん♡

ふっ♡ ふっ♡ ふうう……っ♡

はあ、はあ、はあ……っ♡

さあ、旦那様♡ 私のおっぱい、飲んでください……っ♡

ええ、おっぱいです♡

私が口移しで、飲ませてさしあげますから♡

んじゅるうう……っ♡ じゅっちゅう……っ♡

ん……っ♡

ぷえあ……っ♡ はっ、はあ……っ♡

いかがですか、旦那様……っ♡

私の唾液混じりの母乳はあ……っ♡

っおお……っ♡

おチンポがちり、また硬くう……っ♡

っああ、んあう、んっく、くあ……っ♡

はあっ、んんあ、つくあ……っ♡

んうっああん、うん、あんっ、あっ、んあ、ああ……っ♡

あっ、あっ、旦那様っ、旦那様あ……っ♡

おまんこイキますっ♡ おまんこっ、絶頂っ♡

ポテ腹まんこっ♡ イキますっ♡ イキますっ♡

はいっ♡ 来てください……っ♡

ポテ腹まんこに精液中出し……っ♡

お腹に赤ちゃんいるところに……っ♡

父親精液っ♡ いっぱい、出して……っ♡

っへあああ……っ♡

んっうんっ、はっあああ……っ♡

おチンポおつきっ♡ おチンポっ♡ おおお……っ♡

あっ、あっ、旦那様っ♡

どうぞ、どうぞ、中でいっぱいっ♡ おチンポびゅううう……っ♡

ううあっ、っああっ、んううんうあああ♡

んううああっ、んっうううっ♡ あっ、あっ♡ 精子っ♡ あっっいっ

♡

お腹にまた、たっぷり、孕ませ汁があ……っ♡

はっ、はっ、ふっ、ふうう……っ♡

んうあ……っ♡ うっ、ふうっ、くううん♡

ああ、旦那様♡

んっひ……っ♡

ああ、そちら……っ♡

んっおあ……っ♡ そちらは、お尻い……っ♡

ひい、あはあ、ううあっ……っ♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ……♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう……っ♡

あああ……っ♡ 続けてお尻交尾なんて……っ♡

さすが私の、旦那様あ……っ♡

おチンポとっても強くって……っ♡

うううん……っ♡

ひい、あはあ、ううあっ……っ♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ……♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう……っ♡

へっ、はっ、ああっ、あなたぁ……っ♡

愛しております、あなた……っ♡

大好きです……っ♡ 私の愛するっ、旦那様ぁ……っ♡

んぁ、うっふ、うん、あは、あんっ、あんっ、あんっ♡

ん、んぁ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん……っ♡

んぁっ、あんっ、あっ、んぁ、ああんっ♡

ふっ、はっ、ふっ、ふっううん……っ♡

はいっ♡ はいっ♡ どうぞ……っ♡

また、おチンポお射精……っ♡

今度は私のケツ穴に……っ♡

お尻の中につ♡ お尻の奥にいい……っ♡

旦那様チンポ汁……っ♡ いっぱい、お注ぎください……っ♡

くっ、ふううっ♡ ふふうううっ♡ んうぁぁぁ……っ♡

イック♡ イック♡ イッグ♡ ううっううう……っ。

うううぁぁぁ……っ♡

イッグううっううう……っ♡

あなたぁぁ……っ♡

はっああっ、ふうううっ♡

んっ♡ んっひい……っ♡

へっ、はっ、はっ、ふううう……っ♡

お尻に熱いの、たくさん、中出し……っ♡

おまんこもお尻も、気持ちよくしていただいて……っ♡

雅はとっても幸せです♡

この桜の木に誓って♡

一生幸せでおりましようね……♡

旦那様♡ ふふふふ……♡「♡」

● 第13章

紅「ほれ、来い♡

妾のおまんこは、そちだけのものじゃぞ♡

そのぶっといおチンポで貫いて♡

腹の赤子にまで伝わるほど強く、突っついてみい♡

んっう……っ♡

はっああああ……っ♡

ああ、んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ♡

やんっ、ああ、うあんっ♡

くっううん……っ♡ ああ、旦那様あ……っ♡

妾のおまんこっ、っううっうあ……っ♡

おチンポで貫かれてっ♡ あっという間にっ♡

幸せいっぱい……っ♡

あん、うん、あん、あんっ、ん、んあ、はあ、あふ、ふあっ……♡
くうっくうん♡

姉妹共につ♡ 妻としたっ♡ 絶倫チンポ……っ♡

妾のおまんこっ♡ ぴったりのっ♡

最高のオスチンポお……っ♡

お腹を大きく膨らませた妻に対してっ♡

なんと容赦のない……っ♡ くっくうんあ……っ♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ……♡

ああ、じゃが、いい……っ♡

とてもよいぞお……っ♡ 旦那様チンポ……っ♡

ポテ腹交尾い……っ♡

おまんこにつ♡ 脳髓につ♡ ぞくぞく来おる……っ♡

幸せな感情、どっぷりとお……っ♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう……っ♡

っあああ♡

おっぱいも、溢れてえ……っ♡

へっ、はっ、くううん……っ♡

ふっう、ふっう、はっあ、はあああ♡

ほれ、旦那様♡

もっとおチンポ、大きくしてくれ♡

そのために、私のおっぱい♡

赤ちゃんのためのおっぱい、特別に♡

たんまり飲ませてやるからの♡

ぢゅっちゅっう……っ♡

っへあ……っ♡

どうじゃ♡ 愛する妻の唾液混じりの……っ♡

熱い母乳は……っ♡

んっいいい……っ♡

ああっ♡ 喜んでくれている、ようじあの……っ♡

おチンポ、さらに熱く……っ♡ ほっおう……っ♡

中にいっぱい、熱い精液い♡

っはっ♡ ふっ、はっああ……っ♡

中っ♡ いっぱいっ♡ 出してくれえ……っ♡

んあ、んふう、うう、うあ、あう、んう、ん、んっく、くう……♡

うううあああ……っ♡ イクイクイクイクっ♡ イッグっ♡

くうっくうん……っ♡

くうあああっ♡ はっああっあああ……っ♡

ふっ、いっ♡ ほっ、ふうう……っ♡

ああ、熱い、のじゃ♡

熱々精子が、いっぱい、奥に♡

赤ちゃんにまで、届いてしまうかもしれんなあ♡

はあ、はあ、はあ♡

んっくうん♡

はっ、はっ、は……っ♡

あ……っ♡

うういいいい……っ♡

お尻、にい……っ♡

お尻まんこにっ♡ 旦那様チンポが……っ♡

っあああ……っ♡

んんう……♡ んっあああ♡ んっくうん♡

あああ……っ♡

まだっ♡ おまんこの余韻も消えてないというに……っ♡

ケツ穴にまでっ♡ チンポっ♡ ハメよるとはあ……っ♡

さすが妾の旦那様……っ♡

妾の喜ぶことをっ♡ すべて知って……っ♡

んっいいい……っ♡

はっ♡ ふっ♡ 旦那様っ♡ うっくうっ♡

っああああ……っ♡

ぷっは♡

はっ♡ はっ♡ 旦那様っ♡

硬いおチンポっ♡ 強いチンポっ♡

大好きじゃ……っ♡

この桜の木の下でっ♡ 幸せ交尾……っ♡

妾の悲しみすべてを吹き飛ばすっ♡

夫婦の営み♡ 最高じゃあ♡

んあっ、ん、んあ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん……っ♡

うっ、あっ、んっいいっ♡

くうううん♡

っあああ……っ♡

イグイグっ♡ 尻穴っ♡

尻穴絶頂っ♡ イクぞ♡ イクぞお……っ♡

旦那様のかっこいいおチンポで♡

愛情たっぷりおチンポ抽挿……っ♡

尻穴幸せにされてイグ♡

いっぱいイグ♡ いっぱいイッグううう……っ♡

ううあっ♡ はっあああ……っ♡

イグイグイグイグっ♡ んうんっ、はっあああ……っ♡

出してっ♡ 出してっ♡ 旦那様あ♡

ポテ腹ケツ穴射精……っ♡

妾のお尻にっ、熱いのっ、どっぴゅうう……っ♡

うっ、うっ、うっおっ♡ っあああ……っ♡

んうういいっ♡ ふんううあっあああ……っ♡

ああ♡ 旦那様♡

熱いのどぶどぶ♡ いっぱい、びゅるるう♡

ふっ、くっ、うっくっ、あああ♡

ああ、旦那様♡

感謝するぞ♡ 妾とこんなに♡

強く、愛し合ってくれて♡

これからかどうか、末永く♡

妾の側に、いておくれ♡

妾の愛する旦那様♡

ふふふふふふ……♡「♡」

● 第14章

◆ ①

雅「旦那様♡ おはようございます♡

ほら、もう朝ですよ♡ 起きてください♡

まだ眠たいですか？

ふふ……そうですね……♡

朝起きるというのは辛いものです♡

ですが、それを乗り越えて起きるからこそ、

今日という一日を強く生き抜くことができるのですよ♡

さあ、がんばって起きましょう♡

大丈夫です♡ 私がいっしょにいますから♡

今日も二人でいっしょに、楽しく過ごしましょう♡

ふふふふふ……♡」

紅「ほうれ、もう朝じゃぞ？

さっさと起きんか、寝ぼすけめ♡

まったく、妾に起こしてもらえんと、

一人で床を出ることも出来んのか♡

放っておけないやつじゃのお♡

さあ、とつと起きて、顔でも洗ってこい♡

今日は妾と共に、一日過ごすのじゃろう？

こうしている時間がもったいないからのう♡

早くせんと、妾一人で行ってしまうぞ？？

ふふふふふ……♡」



雅「旦那様♡

起きてください♡」

紅「ほら、早く起きろ♡

いつまでも寝ぼけておるなよ、まったく♡」

雅「今日は三人でお出かけする約束でしたでしょう？

あなたがいないと、何も始まらないのですから♡」

紅「そうじゃ♡ 妾たちの愛する夫がいないと、

夫婦で楽しくお出かけはできんじゃろう♡

だから早く、目を覚ますのじゃ♡」

雅「はい、ちゃんと起きられましたね……♡

えらいですよ、旦那様♡」

紅「では、約束通り♡

三人で眺めのいいところにも繰り出すか♡

ふふふ……♡ 楽しみじゃなあ♡」



雅「起きてください、旦那様♡」

紅「とっとと起きろ、旦那様♡」

雅「ふふ……♡ おはようございます、旦那様♡

さあ、お目覚めの母乳♡

飲んでください♡」

紅「こちらにもあるぞ♡

ほれ、朝から溢れてたまらんのじゃ♡

早く飲んでくれ♡」

雅「っはぁ♡

ありがとうございます♡

朝からいっぱい飲んでいただけで、

うれしいです♡」

紅「そちもこれで、朝から元気いっぱいじゃろう♡

今日も一日、妻たちのためにがんばるのじゃぞ♡」

雅「それでは、今日も一日がんばりましょうね……♡

愛する旦那様あ♡ ふふふふふ……♡」

◆
⑤

雅「さあ、旦那様♡

いいこですから……今日はもう、眠りましょう♡

もうこんな時間ですから、そろそろ寝ないと、

明日に差し障ります♡

まだまだ起きていたい気持ちはわかりますが……♡

明日はまたやってくるのですから♡

楽しみは明日に残して、今日はお眠りくださいね……♡

私が添い寝してあげますから、大丈夫です♡

ゆっくり眠りについてくださいね……♡

おやすみなさい、旦那様♡」

紅「ほれ、どうした？

今日はもう寝る時間じゃぞ♡

ふふ、まだ眠りたくない？

まったく、またそれか♡

いかんと言っておるじゃろう？

夜更かしは身体に悪い♡

そちにはこれから健康でいてくれんと困るからの♡

さっさと眠ってしまえ♡

なあに、安心せい♡

妾もいっしょに眠ってやるから♡

妾に抱き着きながら、ゆっくり眠れ♡

うむ♡
おやすみ、
旦那様♡」

雅「さあ、旦那様♡ 目を閉じて♡

今日もいっしょに眠りましょう♡」

紅「うむ♡ 我ら三人、一つの布団で♡

仲良く抱き合いながら、今日も眠ろう♡」

雅「みんなで寝れば、あたたかく♡

夜に怖がることもなく、ぐっすり眠れますから♡」

紅「夢の中でもみんないっしょじゃ♡

安心じゃろう？ ふふふ……♡」

雅「さあ、旦那様♡

私たちの胸の中で♡

おやすみなさい♡」

紅「また明日の朝な♡

おやすみ、旦那様♡」

雅「ほうら、旦那様あ♡」

紅「お口、あゝん♡」

雅「っはあ♡

おいしいですか、旦那様♡

おやすみ前の、我らの母乳♡」

紅「眠る前の、あたたかな一杯は♡

寝付きをよくするからのう♡」

雅「もっと飲みたいですか？ ええ、どうぞ♡

でも、飲み過ぎは注意ですよ♡」

紅「また明日も、たんまり飲ませてやるからの♡

今日はほどほどにしておかんと♡」

雅「もうよろしいですか？ ふふ……♡

では、旦那様♡

雅「おやすみなさい♡」

紅「おやすみなさい♡」

雅「ふう……。心配ですね……。」

今日はあなたといっしょにいられないなんて……。

いつもいっしょにおりますから、

たまにこうして離れるとなると、

どうしても不安になってしまいます……。

ええ、わかっております。

あなたなら全然問題ないはずだ、と……。

それでもやはり……。私は、さびしいのです……。

旦那様。どうか、道中お気を付けくださいね。

ええ……。無事のお帰り、お待ちしております。

では、いってらっしゃいませ♡」

紅「準備はできたか？

忘れ物は本当はないのか？

心配じゃのう♡

そちはおっちょこちよいじやからな♡

この間も、肝心なところで間違って、

妾に泣きついてきたじやろうが……♡

何なら今日は、着いて行ってやろうか？

妾がいつしよなら、心配などないからの♡

ふふ……♡ 冗談じゃ♡

気をつけて行ってこい、旦那様♡

無事に戻ってくるのじゃぞ♡ ふふふふふ……♡「♡」

雅「さあ、旦那様♡

どうぞ、こちらへ♡

いってらっしゃいのぎゅ♡♡

してあげますから♡

紅「ほれ、こっちにもじゃ♡

妾もぎゅ♡♡ してやるからの♡

雅「今日はあなた一人での出陣です♡

心配ですが……♡♡ 信じておりますからね……♡♡

どうぞ、がんばってきてください♡♡

紅「よしよし、よしよし♡♡

問題ないぞ♡♡ いつも通りのことをするだけで、

いいのじゃからな♡

がんばってこい♡

雅「行ってらっしやいませ、旦那様♡」

紅「うむ♡ 気をつけて行ってこい♡

我らの旦那様♡

ふふふふふ……♡

雅「はあい♡ おっぱいどうぞお♡」

紅「ほうれ♡ おっぱいどうぞお♡」

雅「いっぱい飲めてえらいですねえ♡」

旦那様♡」

紅「たくさんぐくぐちゅうちゅう♡」

かっこいいぞ♡ よしよし、よしよし♡」

雅「帰ってきたら、またたくさん♡」

あったか母乳、飲ませてあげますからね……♡」

紅「日中口寂しいじゃろうが、がんばるのじゃぞ♡」

あとでまた、たんまり飲ませてやるからの♡」

雅「さあ、最後の一杯♡」

紅「たっぷり飲んで♡」

雅「いってらっしゃいませ、旦那様♡」

紅「いってらっしゃい、旦那様♡」